

『POWERS OF TWO 二人で一人の天才』

注釈

## 序曲

### ・世界に存在する誰か

Martin Buber, "To Hallow This Life: An Anthology" (New York: Harper, 1958)

### ・演劇が生まれる

トニー・クシュナー『エンジェルス・イン・アメリカ』第2部「ベレストロイカ」(New York: Theatre Communications Group, 1993)。クシュナー自身が力強い言葉で生き生きと伝え、人生と仕事で実践しているが、本人によるとマルクスの考えだという。正確な引用は「マルクスの言うとおりだ。それ以上は分割できない人間の最小単位は2人。1人ではない」。

### ・1967年3月29日

ハンター・デイヴィス『ビートルズ』(小笠原豊樹, 中田耕治訳, 河出書房新社, 2010年)は「3月半ば」に行われたセッションとしているが、前後の文脈から、マーク・ルイソン『ザ・ビートルズ レコーディング・セッションズ完全版』(内田久美子訳, シンコーミュージック, 2009年)に3月29日とある「ウィズ・ア・リトル・ヘルプ・フロム・マイ・フレンズ」の最初のセッションと同じ夜と考えられる。デイヴィスに確認したところ、「いつものように私よりマーク・Lを信頼してほしい」と2014年1月31日に返信があった。この章のほかの詳細はデイヴィス『ビートルズ』より。

### ・詩の順番を入れ替え

このとき“do”を“would”に替えた。

## イントロダクション

### ・偉人たちの伝記

トマス・カーライル『英雄崇拜論』(老田三郎訳, 岩波文庫, 1949年)。http://www.gutenberg.org/files/1091/1091-h/1091-h.htm (プロジェクト・グーテンベルク, 2012年)

### ・社会が偉人を生まなければならない

Herbert Spencer, "The Study of Sociology" (London: C. Kegan Paul, 1881)

### ・16世紀のフィレンツェ

Gene A. Brucker, "Renaissance Florence" (Berkeley: University of California Press, 1969)

### ・啓蒙時代のロンドン

革新が生まれる奇妙なきっかけについては、ステイブーン・ジョンソン『イノベーションのアイデアを生み出す七つの法則』(松浦俊輔訳, 日経BP社, 2013年)を参照。ジョンソンは2010年7月に英オックスフォードで開催されたTEDグローバルの講演で、コーヒーハウスがイングランドの啓蒙運動の中心となったことについて、さまざまな経歴の持ち主や専門家が同じ空間に集まって「流動的ネットワーク」が生まれたと説明している。オックスフォードでイングランド初のコーヒーハウス、グランドカフェが開店したのは1650年。まさに啓蒙運動が始まろうとしていたときで、「この時代に生まれたとてつもない数のアイデアは、その物語のどこかにコーヒーハウスが登場する」。http://www.ted.com/talks/steven\_johnson\_where\_good\_ideas\_come\_from

### ・ピクサーのスタジオ

Keith Sawyer, "Group Genius at Pixar," Creativity & Innovation (blog), September 12, 2008, http://keithsawyer.wordpress.com/2008/09/12/group-genius-at-pixar/. キース・ソーヤー「凡才の集団は孤高の天才に勝る——「グループ・ジーニアス」が生み出すものすごいアイデア」(金子宣子訳, ダイヤモンド社, 2009年)も参照。

### ・手頃な物語

ここで言う「物語」は、第一に孤高の英雄が奮起するストーリーを指す。英雄の物語は基本的に、始まりと終わりは主人公が1人だけになる。ジョセフ・キャンベルが提唱したこのルールは、脚本家のバイブルとされるクリストファー・ボグラー『神話の法則——ライターズ・ジャーニー 夢を語る技術』(岡田勲ほか訳, ストーリーアーツ&サイエンス研究所, 2002年)でも説明されている。三文小説や文学的な回想録, CM, テレビゲームなどあらゆる物語に通じる神聖なルールだ。「物語」の2つめの意味は、複雑な現象を理解しやすくする単位としてだ。これについてジョン・ディディオンは、「私たちは生きるために、自分に物語を語る」と述べている(Joan Didion, "We Tell Ourselves Stories in Order to Live: Collected Nonfiction" [New York: Random House, 2006])。筋書きがなければ私たちの心をすり抜けていたかもしれない環境を物語の舞台に選び、解釈して、筋書きを押しつけるところから現実が生まれる。

### ・ウッズについてから5年間

Connell Barrett, "Tiger's Caddie Steve Williams Tells All," Golf Magazine, February 22, 2009, http://www.golf.com/tour-and-news/tigers-caddie-steve-williams-tells-all

### ・共同制作

William Grimes, "Jeanne-Claude, Christo's Collaborator on Environmental Canvas, Is Dead at 74," New York Times, November 19, 2009, http://www.nytimes.com/2009/11/20/arts/design/20jeanne-claude.html?\_r=0)によると、最初はジャンヌ＝クロードの名前を出さなかったことも、のちに共同制作だと明らかにしたことも2人の合意である。「美術商や世間の混乱を避け、アーティストとしてのブランドを確立するために、クリストの名前だけを使うことにした。1994年からは屋外の作品と屋内の大規模なインスタレーション展示について、過去のものも「クリスト&ジャンヌ＝クロード」を使うようになった。それ以外の作品はクリストの名前のみとした」

### ・秘密兵器

デーブル・ポロック『スカイオーキング 完全版——ジョージ・ルーカス伝』(高貴準三訳, ソニーマガジズ, 1997年)

### ・旧三部作

Denise Worrell, "Icons: Intimate Portraits" (New York: Atlantic Monthly Press, 1989)。マーシア・ルーカスについてはMichael Kaminski, "In Tribute to Marcia Lucas" (サイトへの寄稿)より。

### ・マタイ効果

Robert K. Merton, "The Matthew Effect in Science," Science 159, no. 3869 (1968). "The Matthew Effect in Science II: Cumulative Advantage and the Symbolism of Intellectual Property," Isis 79, no. 4 (1988)

### ・医師たちの訓練

Vivien T. Thomas, "Partners of the Heart: Vivien Thomas and His Work with Alfred Blalock: An

Autobiography” (Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 1995); Katie McCabe, “Like Something the Lord Made,” Washingtonian (August 1989)

・マックスウェル・パーキンスのなかにある  
Bernard De Voto, “Genius Is Not Enough,” Saturday Review of Literature, April 21, 1936. 引用の全文は Scott Berg, “Max Perkins” (New York: Dutton, 1978) を参照。

・自分自身でコントロールできない  
ウルフがスクリプナー社と決別する理由をパーキンスに告げる手紙の下書きは心を打たれる。Ted Mitchell, ed., “Thomas Wolfe: An Illustrated Biography” (New York: Pegasus Books, 2006)

・精神的に崩壊しないこと  
F. Scott Fitzgerald, “The Crack-Up,” Esquire, February 1936, <http://www.esquire.com/news-politics/a4310/the-crack-up/>

・弟子や職人とともに  
Richard Posner, “The Courthouse Mice,” New Republic, June 5, 2006, <https://newrepublic.com/article/65480/the-courthouse-mice>

・ジャスティン・ビーバー  
Lizzie Widdicombe, “Teen Titan,” New Yorker, September 3, 2012, <http://www.newyorker.com/magazine/2012/09/03/teen-titan>

・マリオ・バタリー  
レストラン経営のパートナーはジョー・バステリアニッチ。Foster Kamer, “Joe Bastianich and the Gospel of Restaurant Man,” New York Observer, May 30, 2012, <http://observer.com/2012/05/joe-bastianich-profile-restaurant-man-interview-05302012/>

・ドリス・カーズ・グッドウィン  
グッドウィンは多くの著名な作家と同じように、かなりの人数のリサーチアシスタントを雇っている。盗用疑惑が浮上した際は、4 人のリサーチアシスタント（うち 3 人は専属）がいると語っている。David D. Kirkpatrick, “Historian Says Borrowing Was Wider Than Known,” New York Times, February 23, 2002, <http://www.nytimes.com/2002/02/23/us/historian-says-borrowing-was-wider-than-known.html>

・ブランドを象徴する  
作り手を軽んじるように聞こえるかもしれないが、そのようなつもりはない。たとえば規模が大きき社会的事業なら、優れたチームを率いる人物や無名のメンバーも、孤高の天才とされる人と少なくとも同じくらい評価されるべきだ。Mark Rose, “Authors and Owners” (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1993) によると、このような作者と作品の関係は、「文化的な生産物をマーケティングするシステム」など文化全般に見られる。「ジョイス・キャロル・オーツ、ソール・ペロー、ゼイン・グレイ、バプロ・ピカソ、レナード・バーンスタイン、スティーブン・スピルバーグ、クリント・イーストウッド。作者やアーティスト、指揮者、スター（大衆文化において、スターは作者の機能のあらゆる要素を持つ）の名前は一種のブランド名となり、文化的な商品が一定の種類と品質を満たしているという印になる」

・帰属や愛情などの社会的欲求  
アブラハム・マズローの「欲求 5 段階」のピラミッドについては以下のサイトに簡潔な説明がある (<http://psychology.about.com/od/theoriesofpersonality/a/hierarchyneeds.htm>)。マズローの論文 A. H. Maslow, “A Theory of Human Motivation,” Psychological Review 50 (1943) は “Classics in the History of Psychology” に掲載されている (<http://psychclassics.yorku.ca/Maslow/motivation.htm>)。

・最も価値のある資源  
ジョンソン 『イノベーションのアイデアを生み出す七つの法則』

・自分の意識に影響を与えた  
Percy Bysshe Shelley, “Prometheus Unbound: A Lyrical Drama in Four Acts” (London: J. M. Denton, 1898)

・それが問題だ  
筆者とダイアナ・マクレーン・スミスのインタビュー（2013 年 6 月 18 日）。

・ジークムント・フロイトと弟子のヴィルヘルム・ライヒ  
Michael P. Farrell, “Collaborative Circles: Friendship Dynamics and Creative Work” (Chicago: University of Chicago Press, 2001)

・役割や地位が固定され  
Jose Luis Alvarez and Silviya Svejenova, “Sharing Executive Power: Roles and Relationships at the Top” (Cambridge: Cambridge University Press, 2005)

・特別な献身  
Georg Simmel, “The Number of Members as Determining the Sociological Form of the Group: I,” American Journal of Sociology 8 (1902)

・同じ形が次々に現れる  
ジョンソン 『イノベーションのアイデアを生み出す七つの法則』

・文化に新しく加える価値のある  
M・チクセントミハイ 『クリエイティビティ——フロー体験と創造性の心理学』（浅川希洋志監訳、須藤祐二、石村郁夫訳、世界思想社、2016 年）

・自分が宗教とのあいだに感じている距離  
Louis Menand, “William James & the Case of the Epileptic Patient,” New York Review of Books, December 17, 1998, <http://www.nybooks.com/issues/1998/dec/17/>

## 第 1 部 邂逅

1. 「君を見ていると、チャーリー・マンガーを思い出す」——組み合わせと磁石

・「君を見ていて、チャーリー・マンガーを思い出す」  
ジャネット・ロウ『世界一の投資家バフェットを陰で支えた男 投資参謀マンガー』（増沢和美訳、パンローリング）

・2人は気が合うに違いない  
“Steve Jobs: One Last Thing,” directed by Sarah Hunt and Mimi O’Conner (2011)

・ピエール・キュリー  
Denis Brian, “The Curies: A Biography of the Most Controversial Family in Science” (Hoboken, NJ: John Wiley and Sons, 2005)

・1つだけがつながっている場合  
Georgi Kossinets and Duncan J. Watts, “Empirical Analysis of an Evolving Social Network,” Science 311 (January 2006). 「1つ」の媒介という数字はワッツが筆者へのメールで言及した。

・普通の出会  
ジョン・カシオガ、ウィリアム・パトリック『孤独の科学——人はなぜ寂しくなるのか』（柴田裕之訳、河出書房新社、2010年）

・一段ずつ  
同上

・「私に近い6人の他人」  
John Markoff and Somini Sengupta, “Separating You and Me? 4.74 Degrees,” New York Times, November 21, 2011, <http://www.nytimes.com/2011/11/22/technology/between-you-and-me-4-74-degrees.html>

・間接的な他人  
Melinda Blau and Karen L. Fingerman, “Consequential Strangers: The Power of People Who Don’t Seem to Matter…but Really Do” (New York: W. W. Norton, 2010)

・ときどき、あるいはたまに接触があるだけの関係  
Mark Granovetter, “The Strength of Weak Ties,” American Journal of Sociology 78, no. 6 (May 1973). 「人脉で仕事を見つけた人のうち、16.7%の人はときどき接触がある関係が、27.8%はたまに接触がある関係が繋がったと答えている」

・磁石の場  
Farrell, “Collaborative Circles”

・エルサレム  
ダニエル・カーネマン『ファースト&スロー——あなたの意思はどのように決まるか』（村井章子訳、早川書房、2014年）

・スタンフォード大学大学院  
Stephanie Sammartino McPherson, “Sergey Brin and Larry Page: Founders of Google”

(Minneapolis: Twenty-First Century Books, 2011)

・DNAの二重らせん構造  
H・F・ジャドソン『分子生物学の夜明け——生命の秘密に挑んだ人々』（野田春彦訳、1982年、東京化学同人）。“DNA and the Cavendish Laboratory” (Cambridge: University of Cambridge, Cavendish Laboratory, 2003), <http://www-outreach.phy.cam.ac.uk/resources/dna/fullstory.pdf>

・創作活動の無二のパートナー  
パティ・スミス『ジャスト・キッズ』（にむらじゅんこ、小林薫訳、河出書房新社、2012年）

・公民権運動  
Ralph David Abernathy, “And the Walls Came Tumbling Down: An Autobiography” (New York: HarperCollins, 1991)

・フェイスブックのCOOに就任  
Miguel Helft, “Mark Zuckerberg’s Most Valuable Friend,” New York Times, October 2, 2010, <http://www.nytimes.com/2010/10/03/business/03face.html>. パーティーのホストはダン・ローゼンバーグだった。Ken Auletta, “A Woman’s Place,” New Yorker, July 11, 2011, <http://www.newyorker.com/magazine/2011/07/11/a-womans-place-ken-auletta>.

・彼女の右腕となった  
Elisabeth Griffith, “In Her Own Right: The Life of Elizabeth Cady Stanton” (Oxford: Oxford University Press, 1984); Geoffrey C. Ward, “Not for Ourselves Alone: The Story of Elizabeth Cady Stanton and Susan B. Anthony: An Illustrated History” (New York: Knopf, 2001)

・男性プリンシパルに抱き止められる  
Suzanne Farrell, “Holding On to the Air: An Autobiography” (Gainesville: University Press of Florida, 2002)

・奨学生  
同上

・部屋を出た  
“Suzanne Farrell: Elusive Muse”, directed by Anne Belle and Deborah Dickson (PBS, 1996) より。Holding On to the Air では、部屋を出る前にバラシンが自分の足を丹念に調べたと振り返っている。

・合格だった  
Farrell, “Holding On to the Air”

・歴史的瞬間  
マット・タイルナウアーには2014年2月12日に筆者がインタビューをした。ヴァレンティノとジャンカルロの出会いについてはMatt Tyrnauer, “So Very Valentino,” Vanity Fair, August 2008 (<http://www.vanityfair.com/culture/features/2004/08/valentino200408>) とドキュメンタリー「Valentino The Last Emperor (ヴァレンティノ：最後の帝国)」(Acolyte Films, 2009)を参照。

・コーヒーハウスの登場

Steven Johnson, "Coffee Fueled the Age of Enlightenment" (FORA.tv, 2012), [http://www.dailymotion.com/video/xgjlhj\\_steven-johnson-coffee-fueled-the-age-of-enlightenment\\_news#.Ue7NglPo-2w](http://www.dailymotion.com/video/xgjlhj_steven-johnson-coffee-fueled-the-age-of-enlightenment_news#.Ue7NglPo-2w)

・クリエイティブ・クラス

リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論——才能が経済と都市の主役となる」(井口典夫訳, ダイアモンド社, 2014年)

・違うフロアにいる同僚

Robert Kraut, Carmen Egido, and Jolene Galegher, "Patterns of Contact and Communication in Scientific Research Collaboration," in CSCW '88: Proceedings of the 1988 ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work (presented at the ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work, New York: Association for Computing Machinery, n.d.)

・遠く離れている共同執筆者

Kyungjoon Lee et al., "Does Collocation Inform the Impact of Collaboration?," PLoS ONE 5, no. 12 (December 15, 2010). 「通信技術の発達では世界中で協力関係のスタイルと範囲を劇的に変えてきたが、物理的な近さは今なお、科学研究の影響力において重要な役割を果たしている。共同執筆者の物理的な近さは、論文の重要度を高める要素になることがわかった」

・在宅勤務をやめて

Claire Cain Miller and Catherine Rampell, "Yahoo Orders Home Workers Back to the Office," New York Times, February 25, 2013, <http://www.nytimes.com/2013/02/26/technology/yahoo-orders-home-workers-back-to-the-office.html>. 以下も参照。"Bodies Matter: The Inconvenient Truth in Marissa Mayer Banning Telecommuting at Yahoo," Forbes, <http://www.forbes.com/sites/toddesig/2013/02/28/bodies-matter-the-inconvenient-truth-in-marissa-mayer-banning-telecommuting-at-yahoo>

・できるだけ少なくしている

Claire Suddath, "Why Won't Yahoo! Let Employees Work from Home?" Businessweek, February 25, 2013, <http://www.businessweek.com/articles/2013-02-25/why-wont-yahoo-let-employees-work-from-home>

・言葉より4倍、有力なツールに

Michael Argyle et al., "The Communication of Inferior and Superior Attitudes by Verbal and Non-verbal Signals," British Journal of Social and Clinical Psychology 9, no. 3 (1970); Christopher K. Hsee, Elaine Hatfield, and Claude Chemtob, "Assessments of the Emotional States of Others: Conscious Judgments versus Emotional Contagion," Journal of Social and Clinical Psychology 11, no. 2 (1992), <http://www2.hawaii.edu/~elaine/h/84.pdf>

・神経回路のWiFi

ダニエル・ゴールマン「SQ 生き方の知能指数」(土屋京子訳, 日本経済新聞出版社, 2007年)

・ジャズの即興演奏

Frank J. Bernieri and Robert Rosenthal, "Interpersonal Coordination: Behavior Matching and Interactional Synchrony," in Fundamentals of Nonverbal Behavior, eds. Robert Stephen Feldman and Bernard Rime (Cambridge: Cambridge University Press, 1991)

・複雑なダンス

ゴールマン「SQ 生き方の知能指数」

・ほかの惑星から来た

Mick Wall, "Enter Night: A Biography of Metallica" (New York: St. Martin's Press, 2011)

・ジャムセッションができる

同上

・ウルリッヒは振り返る

ハワード・スターンによるラース・ウルリッヒのインタビュー (2011年9月20日).

・通算1億枚以上

"Q Prime: Metallica" (サイト"Q prime")

・普通の人間ではない

ステーヴン・ネイフ, グレゴリー・ホワイト・スミス「ファン・ゴッホの生涯」(松田和也訳, 国書刊行会, 2016年)

・9年間ほとんど会わなかった

Mary Moorman, "William Wordsworth: A Biography: The Early Years, 1770-1803" (Oxford: Oxford University Press, 1957)

・共同で脚本を書きはじめた。

"Coen Brothers" Wikipedia [http://en.wikipedia.org/wiki/Coen\\_brothers](http://en.wikipedia.org/wiki/Coen_brothers)

## 2. 双子より似ている双子——類似と相違

・エルヴィス・プレスリーみたいだと思った

デイヴィス「ビートルズ」

・イギリスでもチャート1位を獲得

"The History of Heartbreak Hotel," Independent, <http://www.independent.co.uk/arts-entertainment/music/features/the-history-of-heartbreak-hotel-6105739.html>

・エルヴィスには何よりも影響を受けた

デイヴィス「ビートルズ」

・「トゥッティ・フルッティ」

マーク・ルイソン 『ザ・ビートルズ史 誕生』(吉野由樹訳, 河出書房新社, 2016年)

・総立ちになった

Howard Sounes, "Fab: An Intimate Life of Paul McCartney" (Cambridge, MA: Da Capo, 2010)

・この曲を知っているのはソウだという合図

ルイソン 『ザ・ビートルズ史』

・リバプールのアイルランド系移民

Bob Spitz, "The Beatles: The Biography" (Boston: Little, Brown, 2006)

・「行くぞ」

ルイソン 『ザ・ビートルズ史』

・同じだから好き

ホモフィリーの専門的な説明は以下を参照。Aaron Retica, "Homophily," New York Times, December 10, 2006, <http://www.nytimes.com/2006/12/10/magazine/10Section2a.t-4.html>

・民族、人種などの類似点

Miller McPherson, Lynn Smith-Lovin, and James M. Cook, "Birds of a Feather: Homophily in Social Networks," Annual Review of Sociology 27 (2001)

・(手帳の) ページを破っていた

James Westcott, "When Marina Abramovic Dies: A Biography" (Cambridge, MA: MIT Press, 2010)

・個人の自立した思考

Paul Gompers, Vladimir Mukharlyamov, and Yuhai Xuan, "The Cost of Friendship" (working paper, National Bureau of Economic Research, June 2012), <http://www.nber.org/papers/w18141>

・対立がなければ進歩はない

ウィリアム・ブレイク『天国と地獄の結婚』(William Blake, "The Marriage of Heaven and Hell" Mineola, NY: Courier Dover, 1994, 29). ブレイクは、人間の対立ではなくエネルギーの対立について語っている。「魅力と嫌悪、理性とエネルギー、愛と憎しみが、人間の存在には必要だ」

・3つめの芸術

Philip Furia, "Ira Gershwin: The Art of the Lyricist" (Oxford: Oxford University Press, 1997)

・回路や思考

Arthur Koestler, "The Act of Creation" (New York: Dell, 1964)

・パソコンを開発

Geoff Colvin, "Talent Is Overrated: What Really Separates World-Class Performers from Everybody Else" (New York: Portfolio, 2010)

・パラダイムシフト理論

トーマス・クーン『科学革命の構造』(中山茂訳, みすず書房, 1971年)

・居心地の悪い質問

J. Richard Hackmanのインタビュー。Diane Coutu, Harvard Business Review (May 2009) <http://hbr.org/2009/05/why-teams-dont-work>

・初対面のスタッフを加えたチーム

Brian Uzzi and Jarrett Spiro, "Collaboration and Creativity: The Small World Problem," American Journal of Sociology 111 (September 2005): 447-504. この研究は一部のヒットメーカーに関する考察として引用されることも少なくないが、ウッツィとシャピロは約45年間にプロドウェイで制作された全ミュージカルを分析している。詳しくは以下を参照。Jordan Ellenberg, "Six Degrees of Innovation," Slate, March 23, 2012, <http://is.gd/u9V9FQ>

・互いを打ち消し合うのではなく

筆者とマクレーン・スミスインタビュー (2013年6月14日)。

・刑務所さ (The penitentiary)

Philip Norman, "John Lennon: The Life" (New York: Doubleday, 2008)

・「器用な」アレンジ

テリー・グロスのラジオトーク番組「フレッシュ・エア」でポール・マッカートニーが語った。Terry Gross, Fresh Air, <http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyId=127411144>

・イギリスでは一般的ではなかった

バリー・マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』(松村雄策訳, ロッキングオン, 1998年)

・あれを聴いた瞬間

テリー・グロスのインタビュー。

・ジョンの親友のビート・ショットンは振り返る

Spitz, "The Beatles"

・父と行く吹奏楽団のコンサート

マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

・シナトラに歌ってもらいたい

"The Making of 'Sgt. Pepper,'" The South Bank Show, season 15, episode 25, June 14, 1992

・本物じゃなかった

Jann Wenner, "Lennon Remembers" (London: Verso, 2001)

・ろくに弾けない

Pete Shotton and Nicholas Schaffner, "John Lennon: In My Life" (New York: Thunder's Mouth

Press, 1994)

・軽犯罪を繰り返していた父親  
デイヴィス『ビートルズ』より。ジョンは次のように語っている。「ビートルズがなかったら、最後はフレディ〔ジョンの父親〕のようになっていただろう」

・ビートは語っている  
Shotton and Schaffner, "John Lennon"

・将来の選択肢のひとつ  
デイヴィス『ビートルズ』より。ポールは1987年にテリー・ウォーガンとのインタビューでもこの件について語っている。

・猫のように  
Spitz, "The Beatles"

・どういふふう生きて、どういふ人間になればいいのだろうか  
スティーブ・ウォズニアック『アップルを創った怪物——もうひとりの創業者、ウォズニアック自伝』（井口耕二訳、ダイヤモンド社、2008年）

・1つの体で2本のラケットを  
L. Jon Wertheim, "Togetherness," Sports Illustrated, April 26, 2010; Eric Konigsberg, "Unseparated Since Birth," New York Times, August 30, 2009, <http://www.nytimes.com/2009/08/30/magazine/30brothers-t.html>. Burkhard Bilger, "Perfect Match," New Yorker, August 31, 2009, <http://www.newyorker.com/magazine/2009/08/31/perfect-match>

### 3. 2匹の子グマのように——2人のあいだに電気が走る

・電気が走るというたとえ  
フランシス・クリックは、1951年にフトソンと初めて会ったときに「電気が走った」と述べている。ジャドソン『分子生物学の夜明け』

・10日間ベッドから出なかった  
Judith Thurman, "Marina Abramovi.'s Performance Art," New Yorker, March 8, 2010, [http://www.newyorker.com/reporting/2010/03/08/100308fa\\_fact\\_thurman](http://www.newyorker.com/reporting/2010/03/08/100308fa_fact_thurman)

・火を噴かせようとする  
Janet Flanner, "Master," New Yorker, October 6, 1956

・彼の知識と人望に  
Abernathy, "And the Walls Came Tumbling Down"

・互いの刃を研ぐように

ジョン・バッテル『ザ・サーチ——グーグルが世界を変えた』（中谷和男訳、日経BP社、2005年）

・挨拶だけで十分だ  
C. S. Lewis, "All My Road Before Me: The Diary of C. S. Lewis, 1922-1927" (Boston: Houghton Mifflin, 1992)

・近代まで含めるべきか  
Diana Pavlac Glyer, "The Company They Keep: C. S. Lewis and J.R.R. Tolkien as Writers in Community" (Kent, OH: Kent State University Press, 2007)

・トルキンはその両方だ  
C・S・ルイス『喜びのおとずれ——C・S・ルイス自叙伝』（早乙女忠、中村邦生訳、ちくま文庫、2005年ほか）

・石炭を囓んでいるかのように  
C. S. Lewis, "They Stand Together: The Letters of C. S. Lewis to Arthur Greeves" (1914.1963), ed. Walter Hooper (New York: Collier Books, 1986)

・北部らしさ  
Glyer, "The Company They Keep"

・楽しそうに冗談を言っている  
同上

・映画『キッズ・オールライト』  
リサ・チョロデンコには2012年7月15日に筆者がインタビューをした。ブルムバーグには2014年1月21日付けのメールでチョロデンコとのやり取りを確認した。

・共通の話題は尽きなかった  
ウォルター・アイザックソン『スティーブ・ジョブズ』（井口耕二訳、講談社、2011年）

・また会う約束をした  
Ken Auletta, "A Woman's Place," New Yorker, July 11, 2011, [http://www.newyorker.com/reporting/2011/07/11/110711fa\\_fact\\_auletta](http://www.newyorker.com/reporting/2011/07/11/110711fa_fact_auletta)

・13時間、休みなく  
William McGuire, ed., "The Freud-Jung Letters: The Correspondence Between Sigmund Freud and C. G. Jung" (Princeton, NJ: Princeton University Press, 1994)

・逆方向ではない  
J. Richard Hackmanのインタビュー。Diane Coutu, Harvard Business Review (May 2009)

・安心と同時に新鮮さを求める  
エステル・ベレル『セックスレスは罪ですか?』（高月園子訳、武田ランダムハウスジャパン、2008年）

## 第2部 融合

・1962年  
ルイソン『ザ・ビートルズ史』には、セッションは「おそらく」11月の終わりに行われたとある。マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」は9月としている。

・父ジムは仕事に出かけ  
マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」

・鏡みたいに  
同上

・鉛筆が1本置いてあった  
この場面の詳細は、マイケル・マッカートニー『ビートルズ誕生への軌跡』（斎藤早苗訳、プロデュースセンター出版局、1998年）に収録されている素晴らしい写真を参照した。ダイニングルームから持ってきた椅子とポールのギターについては、ポールの子供時代の家を見学した。“Beatles Gear: All the Fab Four’s Instruments, from Stage to Studio” (San Francisco: Backbeat Books, 2009)の著者 Andy Babiuk がギターの説明してくれたが、特定はできなかった。ギブソンのサイトにはジョン・レノンのギターの詳しい解説がある (<http://is.gd/QSNExr>)。

・美女コンテスト  
のちにカットされた2行目について、マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」は “She’d never been a beauty queen”, Bill Harry, “The Paul McCartney Encyclopedia” (London: Virgin Books, 2002) は “Never been a beauty queen” としている。

・clean は? lean なら?  
マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」

・ジョンが口ずさんだ  
Harry, “The Paul McCartney Encyclopedia”

・ポップス版ロジャース&ハマースタインの仕事ぶり  
マイケル・マッカートニー『ビートルズ誕生への軌跡』より。ただし、ポールの言葉として引用されているかどうかは定かでない。

・顔を突き合わせて  
デービッド・シェフ『ジョンとヨーコ ラストインタビュー』（石田泰子訳、集英社、1990年）

・版權管理会社  
Rupert Perry, “Northern Songs: The True Story of the Beatles’ Song Publishing Empire” (London: Omnibus Press, 2009)

・共有する親密さと野心  
ルイソン『ザ・ビートルズ史』

・カップル・アイデンティティ  
Michael R. Maniaci, “Couple Identity,” in The Encyclopedia of Human Relationships, eds. Harry T. Reis and Susan Sprecher (Thousand Oaks, CA: SAGE Publications, 2009)

・心の共有  
Jordan Zlatev et al., “The Shared Mind: Perspectives on Intersubjectivity” (Amsterdam: John Benjamins Publishing, 2008)

## 4. プレゼンス→信用→信頼——融合の3段階

・バークシャー・ハサウェイ  
バフェットとマンガーの関係の発展については、ロウ『世界一の投資家バフェットを陰で支えた男』とアリス・シュローダー『スノーボール——ウォーレン・バフェット伝』（伏見威著、日本経済新聞出版社、2009年）より。ロウの著書の年表によると、2人は1965年にブルーチップ・スタンプスの株を買いはじめた。

・創作活動で影響を与え合う  
Glyer “The Company They Keep”

・関係は時間をかけてゆっくり深まっていった  
第2部のニール・ブレナンの発言はすべて、2013年2月22日に筆者が行ったインタビューより。

・履歴書やウィキペディアの経歴のように  
Harry Collins, “Tacit and Explicit Knowledge” (Chicago: University of Chicago Press, 2010)

・自分のそばに招き入れる  
ダイアン・アッカーマン『「愛」の博物誌』（岩崎徹、原田大介訳、河出書房新社、1998年）

・2つの脳を最短距離で結ぶ  
ゴールマン『SQ 生きかたの知能指数』

・腹と首を無防備にさらす  
Joshua Wolf Shenk “What Makes Us Happy?” Atlantic, June 2009, <http://www.theatlantic.com/magazine/archive/2009/06/what-makes-us-happy/307439/>

・「イエス」と言ってくれる  
Gertrude Stein, “The Making of Americans, Being a History of a Family’s Progress” (Champaign, IL: Dalkey Archive Press, 1995)

・こんなに喜ばしい夜  
ルイスとトルキンの関係の発展については Glyer “The Company They Keep” と J.R.R. Tolkien “The Letters of J.R.R. Tolkien” ed. Humphrey Carpenter, with Christopher Tolkien (Boston: Houghton Mifflin, 2000) を参照。



・現役マジシャンのなかで

"Penn & Teller: Interview," Time Out, <http://www.timeout.com/london/comedy/penn-teller-interview>

・互いの人生に欠けていた

David Remnick, "Bloodbrother: Clarence Clemons, 1942-2011," June 19, 2011, <http://www.newyorker.com/online/blogs/newsdesk/2011/06/bloodbrother-clarence-clemons-1942-2011.html>

・ツアーに出発する直前に

Ben Sisario, "Clarence Clemons, E Street Band Saxophonist, Dies at 69," New York Times, June 18, 2011, <http://www.nytimes.com/2011/06/19/arts/music/clarence-clemons-e-street-band-saxophonist-dies-at-69.html> ; Jon Pareles, "'Born to Run' Reborn 30 Years Later," New York Times, November 15, 2005, <http://www.nytimes.com/2005/11/15/arts/music/born-to-run-reborn-30-years-later.html>

・この梯子は壊れない

この描写は Sandy Ikeda の素晴らしい投稿を参照にした (<http://thinkmarkets.wordpress.com/2009/02/08/on-confidence-andor-trust/>). 投稿には Adam B. Seligman, "The Problem of Trust" (Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000) の言葉が引用されている。

・どれだけ自信を手にしたことか

アイザックソン 「スティープ・ジョブズ」

・他人に関する疑いを捨て去る

Robert J. Shiller, "Animal Spirits Depend on Trust," Wall Street Journal, January 27, 2009, <http://online.wsj.com/news/articles/SB123302080925418107>

・誰かが捕まえてくれる

筆者とジョージ・サウンダースのインタビュー (2013年4月1日)。

・もう1人のためにリスクをおかす

Sandra L. Shallcross and Jeffrey A. Simpson, "Trust and Responsiveness in Strain-Test Situations: A Dyadic Perspective," Journal of Personality and Social Psychology 102, no. 5 (2012)

・投資としては成功した

シュローダー 「スノーボール」

・1日1食

David Wild, "South Park's Evil Geniuses," Rolling Stone, February 19, 1998, <http://www.rollingstone.com/culture/news/south-parks-evil-geniuses-19980219>

・床に積み上げた洗濯物の上に

"6 Days to Air: The Making of 'South Park,'" directed by Arthur Bradford (Comedy Central, 2011).

・ぎりぎりの生活費

同上

・相棒のことは一生忘れない

筆者とジェイソン・マヒューのインタビュー (2013年12月13日)。

## 5. 信じる心——絆を深める最終段階

・精肉店の配達トラック

Farrell, "Holding On to the Air"

・食事もたいていそこで済ませた

同上

・イーゴリ・ストラヴィンスキー

Jennifer Dunning, "Balanchine and Stravinsky, Reunited," New York Times, January 18, 2007, <http://www.nytimes.com/2007/01/18/arts/dance/18stra.html>

・ニューヨーク・シティ・バレエ団

バランシンについては Associated Press, "Russian Tea Room to Become Rubble," Boca Raton News, December 31, 1995, <http://news.google.com/newspapers?nid=1290&dat=19951231&id=LjNUAAAIBAJ&sjid=R44DAAAIBAJ&pg=6660,5105000>. タナキル・ル・クラークについては Anna Kisselgoff, "Tanaquil Le Clercq, 71, Ballerina Who Dazzled Dance World," New York Times, January 1, 2001, <http://www.nytimes.com/2001/01/01/nyregion/tanaquil-le-clercq-71-ballerina-who-dazzled-dance-world.html>. ニューヨーク・シティ・バレエ団については公式サイト "Our History," <http://www.nycballet.com/explore/our-history.aspx> を参照。

・約90人の踊り手

A cocella, "Profiles: Second Act," New Yorker, January 6, 2003, [http://www.newyorker.com/archive/2003/01/06/030106fa\\_fact\\_acocella](http://www.newyorker.com/archive/2003/01/06/030106fa_fact_acocella)

・体内時計を持っていた

Farrell, "Holding On to the Air "

・数年か、もっと早いかもしれない

同上

・甘美な響きの「ファレル」を選んだ

同上

・医師の指示で

Robert Gottlieb, "George Balanchine: The Ballet Maker" (New York: HarperCollins, 2010)

・電話にも出なかった  
"Elusive Muse"

・アダムスが手で動きを示し  
Jacques d'Amboise, "I Was a Dancer" (New York: Knopf, 2011)

・音楽のタイミング  
Farrell, "Holding On to the Air"

・まだできません  
同上

・たった今、生まれたばかりだ  
同上

・14カ月で15回  
Acocella, "Profiles"

・跳躍は振り付けから消えた  
同上

・信じる心が変わった  
Farrell, "Holding On to the Air"

・想像するだけで恐ろしかった  
同上

・帽子からウサギを取り出した手品師のように  
同上

・踊りつづけた  
デービッド・ダニエルによるアダムスのインタビュー。

・やらせてください  
"Elusive Muse"

・共犯者になった  
Farrell, "Holding On to the Air"

・「ドン・キホーテ」  
Jennifer Dunning, "Love Retrieved, Imperfect and Unbalanced," New York Times, September 16, 2007, <http://www.nytimes.com/2007/09/16/arts/dance/16dunn.html>

・お互いのためだけに  
"Elusive Muse"

・2人きりの乾杯  
Farrell, "Holding On to the Air"

## 6. 「みんな消えちまえ！」——「私たち」の心理学・バッハのフーガ

・バッハのフーガ  
Christopher Hogwood, "Bach-Stravinsky", Four Preludes and Fugues from Das Wohltemperirte Clavier, March 15, 2012, <http://www.hogwood.org/archive/composers/others/bach-stravinsky-four-preludes-fugues.html>

・場面の途中で  
"How Writers Write: Graham Greene," William Landay, <http://www.williamlanday.com/2009/07/08/how-writers-write-graham-greene/>

・2人きりで1時間ミーティング  
Helft, "Mark Zuckerberg's Most Valuable Friend"

・バブに行く  
Glyer "The Company They Keep"

・ルイスのアパートに  
C. S. Lewis, "The Collected Letters of C. S. Lewis" (New York: HarperCollins, 2009)

・毎朝、電話で  
シュローダー 「スノーボール」

・2人のおしゃべりに  
ジャドソン 「分子生物学の夜明け」

・関係して、依存していたから  
筆者とマリーナ・アブラモヴィッチのインタビュー (2013年11月11日)。

・デイブ・シャベルのタイピスト  
Scott King, "Just for Laughs Exclusive — Neal Brennan Interview," Chicago Now, June 14, 2011, <http://www.chicagonow.com/class-act-comedy/2011/06/just-for-laughs-exclusive-neal-brennan-interview/>

・大きな喜び  
Alex Danchev, "Georges Braque: A Life" (New York: Skyhorse Publishing, 2012)

・現代美術の誕生  
ブラックと、彼とピカソとの関係は Janet Flanner の "Master" "Master II" New Yorker, October 13, 1956, および Michael Brenson, "Picasso and Braque, Brothers in Cubism," New York Times,

September 22, 1989, <http://is.gd/aBreQU> を参照。

・バルカン人のゲシュタルト

Michael D. Eisner with Aaron R. Cohen, "Working Together: Why Great Partnerships Succeed" (New York: HarperCollins, 2010)

・どんな理由でも許されなかった

ジョン・ネイスン 『ソニー ドリーム・キッズの伝記』 (山崎淳訳, 文藝春秋, 2000 年)

・口にするプロセス

Mark Snyder, "Self-Monitoring of Expressive Behavior," *Journal of Personality and Social Psychology* 30, no. 4 (1974)

・どんな結果になるかと予想する

筆者とグラハム・ナッシュのインタビュー (2012 年 4 月 18 日)。

・完全に消えた

ノーベル賞の公式サイトに掲載されているダニエル・カーネマンの自伝的エッセイより。 [http://www.nobelprize.org/nobel\\_prizes/economic-sciences/laureates/2002/kahneman-bio.html](http://www.nobelprize.org/nobel_prizes/economic-sciences/laureates/2002/kahneman-bio.html)

・これをこちらに移せばいいと

Eisner and Cohen, "Working Together"

・1 時間のミーティングより多くの意味を

Helft, "Mark Zuckerberg's Most Valuable Friend"

・反応の速さが似てくる

Elaine Hatfield, "Emotional Contagion" (Cambridge: Cambridge University Press, 1994)

・基本的に無意識に行われ

この研究の要約は Molly E. Ireland and James W. Pennebaker, "Language Style Matching in Writing: Synchrony in Essays, Correspondence, and Poetry," *Journal of Personality and Social Psychology* 99, no. 3 (2010) を参照。擬態の概要は Tanya L. Chartrand and Rick van Baaren, "Human Mimicry," *Advances in Experimental Social Psychology*, vol. 41, ed. Mark P. Zanna (San Diego: Elsevier Academic Press, 2009), <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S006526010800405X> を参照。

・夫婦の顔が似てくる

R. B. Zajonc et al., "Convergence in the Physical Appearance of Spouses," *Motivation and Emotion* 11, no. 4 (1987)

・瞳に (燃えさかる情熱)

シュローダー 『スノーボール』

・協調構造の共有

Kevin Shockley, Daniel C. Richardson, and Rick Dale, "Conversation and Coordinative Structures," *Topics in Cognitive Science* 1 (2009)

・知識など

Ireland and Pennebaker, "Language Style Matching in Writing"

・接続詞 (or, but) など

James W. Pennebaker, "The Secret Life of Pronouns: What Our Words Say About Us" (New York: Bloomsbury Press, 2013)

・話したり, 聞いたりする単語

James W. Pennebaker and Cindy K. Chung, "The First Romney-Obama Debate: Off to the Races," *Wordwatchers* (blog), October 3, 2012, <http://is.gd/uH73rq>

・機能語の種類や頻度, 文法的な構造が似る

Pennebaker, "The Secret Life of Pronouns "

・完全に食い違っていた

Ireland and Pennebaker, "Language Style Matching in Writing"

・ジョン・レノンとポール・マッカートニー

クオリーメンの初期のギタリスト, エリック・グリフィスは, 彼らが相手の話の続きを引き取って完結させることもあったと語っている。 Spitz, "The Beatles"

・マット・ストーンとトレイ・パーカー,

"Subversive, Satirical and Sold Out," *60 Minutes* (CBS, 2012), <http://www.cbsnews.com/video/watch/?id=7411226n>

・ダニエル・カーネマンとエイモス・トベルスキー

「私たちはともに研究をしただけではない。 隔だまりであらゆる話をして, 互いに相手の心が自分の心であるかのように理解できた。 相手の話の続きを引き取って完結させ, 相手が言おうとしているジョークを言うこともできたが, 一方で相手の意表をつくことも多かった」 Daniel Kahneman, "Autobiographical Statement: Daniel Kahneman"

・才能があふれてる

筆者とグラハム・ナッシュおよびデビッド・クロスビーのインタビュー (2012 年 4 月 18 日)。

・彼に言うておくよ

"The Coen Brothers," directed by Sarah Aspinall (BBC, 2000)

・片づけよう

David Zax, "Funny Business," *Yale Alumni Magazine* (September/October 2012).

・あつというまに

"Subversive, Satirical and Sold Out"

・僕は「オーケー」と言えばよかった  
"Comedians in Cars Getting Coffee: Larry Eats a Pancake," <http://comediansincarsgettingcoffee.com/larry-david-larry-eats-a-pancake> (10:30)

・批評は相手にしなければいい  
Vera John-Steiner, "Creative Collaboration" (Oxford: Oxford University Press, 2000)

・「私たち」の単位で考えるようになる  
筆者とジェームズ・W・ベンベイカーのインタビュー (2010年6月23日)

・交換記憶  
Daniel M. Wegner, "Transactive Memory: A Contemporary Analysis of the Group Mind," in *Theories of Group Behavior* (New York: Springer, 1987)

・自分が知らないことはほかのメンバーが  
Daniel M. Wegner, "Don't Fear the Cybermind," *New York Times*, August 4, 2012, [http://www.nytimes.com/2012/08/05/opinion/sunday/memory-and-the-cybermind.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/2012/08/05/opinion/sunday/memory-and-the-cybermind.html?_r=0). Daniel M. Wegner, Toni Giuliano, and Paula T. Hertel, "Cognitive Interdependence in Close Relationships," in *Compatible and Incompatible Relationships*, ed. William Ickes (New York: Springer, 1985), 253.76; [http://link.springer.com/chapter/10.1007/978-1-4612-5044-9\\_12](http://link.springer.com/chapter/10.1007/978-1-4612-5044-9_12)

・互いを検索していた  
Clive Thompson, "Is Google Wrecking Our Memory?," *Slate*, September 20, 2013, <http://is.gd/FXt0yB>

・自分がするとき、他人がするのを見ているときとは  
Lea Winerman, "The Mind's Mirror," *Monitor on Psychology* 36, no. 9 (October 2005): 48, <http://www.apa.org/monitor/oct05/mirror.aspx>

・心理学と神経科学の世界  
"Social Cognition," *ScienceDaily*, [http://www.sciencedaily.com/articles/s/social\\_cognition.htm](http://www.sciencedaily.com/articles/s/social_cognition.htm)

・私たちという存在になるのだ  
パティ・スミス 「ジャスト・キッズ」

・より大きな自分になりたい  
この動機は「探索」「好奇心」「能力」「自己改善」などさまざまな言葉で説明され、ゲームに没頭する子供にも見られる。ハーバード大学のテレサ・アマビール教授によると、具体的な見返りがあって発展する資質ではなく生来の性格と考えられる。テレサ・アマビール、ステイブーン・クレイマー 「マネジャーの最も大切な仕事——95%の人が見過ごす「小さな進捗」の力」(中竹竜二監訳、樋口武志訳、英治出版、2017年)と Barbara Chai, "How to Stay Motivated . and Get That Bonus," *Wall Street Journal*, December 31, 2009, <http://online.wsj.com/article/SB10001424052748704152804574628230428869074.html> を参照。

・相手を自分のなかに取り込む  
Martin Reimann and Arthur Aron, "Self-Expansion Motivation and Inclusion of Brands in Self," in *Handbook of Brand Relationships*, eds. Deborah J. MacInnis, C. Whan Park, and Joseph R. Priester (Armonk, NY: M. E. Sharpe, 2009)

・自分を説明した  
Arthur Aron and Elaine N. Aron, "Self and Self-Expansion in Relationships," in *Knowledge Structures in Close Relationships: A Social Psychological Approach*, eds. Garth J. O. Fletcher and Julie Fitness (New York: Psychology Press, 1996)

・同じ人間だからだ  
同じ実験からパートナーと別れるときの感情も推測できる。親密な関係にあった人を失うと、自己拡張と逆の変化が急激に起きる。すなわち、その人物との人間関係で経験した自己拡張が損なわれるのだ。一方で、拡張より制限をもたらすような関係だった場合、別離によって前向きな感情が生まれるかもしれない。筆者は2012年6月8日にアーサー・アロンにインタビューした。

・あなたとパートナーの関係  
Arthur Aron et al., "Inclusion of Other in the Self Scale and the Structure of Interpersonal Closeness," *Journal of Personality and Social Psychology* 63 (1992)

## 7. 「どんな力も私たちを分かつことはできない」——創造的な結婚

・50対50  
Michael D. Eisner, with Aaron R. Cohen, "Working Together"

・きわめて簡単に決まった  
筆者とモリスのインタビュー。

・一人暮らしの「貴重な」自由  
Marie Curie, "Pierre Curie" (with autobiographical notes), trans. Charlotte and Vernon Kellogg (New York: Macmillan, 1923). <http://www.aip.org/history/curie/credits.htm#refs>

・自立した生活を手放すつもりはなかった  
Eve Curie, "Madame Curie: A Biography" (Cambridge, MA: Da Capo, 2001)

・1時間の愛のために  
同上

・結婚より科学を優先させる  
同上

・両親と暮らしていた  
スーザン・クイン 「マリー・キュリー」(田中京子訳、みすず書房、1999年)

・科学のもとに

Eve Curie, "Madame Curie"

・さらにさらに成長する

Herman Melville, "Hawthorne and His Mosses," *Literary World*, August 17 and 24, 1850 を参照。メルヴィルとホーソーンの関係は『白鯨』に重要な影響を与えたと考えられている。メルヴィルは1850年7月に、捕鯨の旅に関する作品が「港が見えるところまで来た」と語っている。この年の8月にホーソーンと知り合い、11月には推敲を始めたようだ。彼はホーソーンに、彼女の夫が「多くの具体的な寓話の特徴」を「最初に教えてくれた」「本質的な寓話性を暗示してくれた」と書いている。文学者のデービッド・B・ケスターソンによると、「メルヴィルの人生において、『白鯨』の執筆中に起きた重要な出来事は、ナサニエル・ホーソーンとの友情が深まったこと」であり、研究者のハワード・ビンセントはホーソーンを、「メルヴィルがそれまで感じてはいたが表に出したことがなかった悲劇的な視点を、表現していたアメリカ作家」としている (David B. Kesterson, "Hawthorne and Melville," lecture delivered in Salem, MA, September 23, 2000, Phillips Library, Peabody Essex Museum)。

・私たちの科学的な夢

Eve Curie, "Madame Curie"

・しだいに引き寄せられた

マリイがピエールとの関係に大きな不安を感じた理由のひとつは、自身の強い愛国心だった。クイン「マリイ・キュリー」によると、彼女はドイツ人男性と婚約した友人を、「外国人と契約を結んだ」と非難したこともある。「あなたの心は自由にならない。どこへ行こうと、心はポーランド人でなければならない」

・向こうで暮らそう

Eve Curie, "Madame Curie"

・永遠につながっている

Penny Colman, "Elizabeth Cady Stanton and Susan B. Anthony: A Friendship That Changed the World" (New York: Henry Holt, 2011)

・私も彼も

J. A. Kaplan, "Deeper and Deeper: Interview with Marina Abramovi.," *Art Journal* 58, no. 2 (1999)

・鋼鉄の磁気

Eve Curie, "Madame Curie"

・放射能の現象を確認

Eve Curie, "Madame Curie" より。実験については Marie Curie, "Pierre Curie" を参照。

・ポロニウムと命名した

Marie Curie, "Pierre Curie"

・ラジウムを発見した

同上

・キュリー夫妻の研究について

Eve Curie, "Madame Curie"

・私たちは観察した

同上

・私たちの1人の出身国にちなんで

同上

・夢を見ているように

クイン「マリイ・キュリー」

・ファッションでも、物理学やポピュラー音楽でも

「創造性は3つの要素から成るシステムの相互作用から生まれる。象徴的なルールを持つ文化と、象徴的な分野に斬新さをもたらす人間と、革新性を認識して立証する専門家の3つだ」。チクセントミハイ「クリエイティヴィティ」より。

・童顔だから

デイヴィス『ビートルズ』より。ジョンは「ザ・ビートルズ・アンソロジー」(EMIミュージック・ジャパン)で、「ジョージを入れるかどうか迷った。彼の演奏を聴いて、『Raunchy』を弾いてくれと言った。彼を加えてギターが3人になった」と語っているが、実際はもっと長い議論の末にジョンが折れたのではないだろうか。マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」によると、ポールはジョージを仲間に入れる「作戦」を展開した。ジョンはジョージの「Raunchy」のソロに「驚いた」が、「ひとつ大きな問題があった。当時14歳だったジョージを仲間に加えるわけにはいかなかった」。もっとも、最後はポールがジョンを説得したというより、ジョージの粘り強さにジョンが根負けしたと、マイルズは書いている。

・ジョンにつきまとって

Shotton and Schaffner, "John Lennon"

・ポールもかなり幼く見えた

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

・ほかの人ではだめだった

デイヴィス『ビートルズ』

・どうかしていた

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

・スチュアートにロックの理想を重ねた

Ellis Amburn, "Subterranean Kerouac: The Hidden Life of Jack Kerouac" (New York: St. Martin's, 1999) によると、レノンにはジャック・ケルアック [ロックなどのカウンターカルチャーに大きな影響を与えたとされるビート・ジェネレーションの代表的存在] にビートルズの名前は「the Beats」から来たと言っているが、由来にはさまざまな説がある。Soules, "Fab" も参照。

・僕はそれを信じた

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

・人生を導く光

Larry Kane, "Lennon Revealed" (Philadelphia: Running Press, 2007)

・ジョンの関心を奪い合っていた

マイルズ 『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

・生きていけない

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

・問題を起こすばかりじゃないか

同上

・いつも折れてしまう

同上

・彼は僕を選んだ

同上

・そのうち仕事に来る

Barry Miles, "The Beatles Diary, Volume 1" (London: Omnibus Press, 2009), e-book

・初めて喝采を浴びた

同上

・リンゴ・スターが加入した

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

・ジェイベジ3

ルイソン 『ザ・ビートルズ史』

・エプスタインと契約書を交わした

同上

・世界中に反抗している

Alistair Taylor, "With the Beatles" (London: John Blake Publishing, 2003)

### 第3部 弁証

・実に探求しがいがある

Andrew Dickson White Museum of Art, "Earth Art" (Ithaca, NY: Office of University Publications,

Cornell University, 1970)

・バクテリオファージ

"Discovery of the Function of DNA Resulted from the Work of Multiple Scientists," n.d., <http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-the-function-of-dna-resulted-6494318>.

・協調ダイナミクス

J. A. Scott Kelso and David A. Engstrom, "The Complementary Nature (Cambridge, MA: MIT Press, 2005); J. A. Scott Kelso, "Dynamic Patterns: The Self-Organization of Brain and Behavior" (Cambridge, MA: MIT Press, 1995).

・狙撃手 (スナイパー) と観測手 (スポッター)

Milo S. Afong, "HOGs in the Shadows: Combat Stories from Marine Snipers in Iraq" (New York: Penguin, 2007)

### 8. スポットライトと影——主演俳優と監督

・資本主義のウッドストック

Dan McCrum, "Fans Flock to 'Woodstock of Capitalism,'" Financial Times, May 6, 2012.

・とくにつけ加えることはない

ロウ 『世界一の投資家バフェットを陰で支えた男』

・母親を有名にした

Judith Thurman, "Wilder Women," New Yorker, August 10, 2009, <http://www.newyorker.com/magazine/2009/08/10/wilder-women>

・私は唇を動かしているだけさ

ロウ 『世界一の投資家バフェットを陰で支えた男』

・その喜びは

Ernest De Selincourt, ed., "The Letters of William and Dorothy Wordsworth," vol. 2 (Oxford: Clarendon Press, 1967)

・バトロンであり、リサーチ係であり、使い走りであり、ペピーシッターだった

ジョイス兄弟に関する美しい描写は George Howe Colt, "Brothers: On His Brothers and Brothers in History" (New York: Simon and Schuster, 2012) を参照。

・イメージを強固なものにした

Ian Desai, "Gandhi's Invisible Hands," Wilson Quarterly (Autumn 2010),

・田舎の小さな教会

筆者とテイラー・ブランチのインタビュー (2013年12月30日)

・ミスター・ラフとミスター・スームス

Taylor Branch, "Parting the Waters: America in the King Years, 1954-1963" (New York: Simon and Schuster, 1998), Kindle edition.

・最愛の親友であり同僚の友

"America's Gandhi: Rev. Martin Luther King Jr.," Time, January 3, 1964, <http://content.time.com/time/magazine/article/0,9171,940759,00.html#ixzz2rGRGiQ4n>

・決してやらない

Ann Romines, "Constructing the Little House: Gender, Culture, and Laura Ingalls Wilder" (Amherst: University of Massachusetts Press, 1997)

・リサーチャー兼秘書

Stacy Schiff, "Vera" (Mrs. Vladimir Nabokov) と "Portrait of a Marriage" (New York: Random House, 1999) が参考になる。ミチコ・カクタンはニューヨーク・タイムズ紙の書評で、ヴェアの役割を「編集者、タイピスト、エージェント、秘書、運転手、世話役、仲介約、緩衝材、リサーチャー、蝶収集の相棒」だったと書いている。 <http://www.nytimes.com/1999/04/27/books/books-of-the-times-behind-a-sorcerer-s-magic-a-formidable-assistant.html>

・スターになろうとしていた

"Valentino The Last Emperor"

・トイレの便座カバー

Giancarlo Giammetti and Armand Limnander, "Private: Giancarlo Giammetti" (New York: Assouline, 2013)

・バスルームで行こう

Cathy Horyn, "Q & A: Giancarlo Giammetti," On the Runway (blog), November 21, 2007, <http://runway.blogs.nytimes.com/2007/11/21/q-a-giancarla-giammetti/>

・どちらか 1 人が後ろに

Derek Blasberg, "The Private Eye of Giancarlo Giammetti," Wall Street Journal, October 10, 2013, <http://online.wsj.com/news/articles/SB10001424052702304213904579095250925722872>

・私の前では

Colt, "Brothers"

・忍耐力が必要だ

"Valentino The Last Emperor"

・2 人が一緒に描いているのだから

Colt, "Brothers"

・おじが勤める「グーベル商会」

おじのヴァインセントはグーベル商会のパートナーで 1872 年に引退したが、78 年まで出資金が残っていた。Chris Stolwijk, Richard Thomson, and Sjraar Van Heugten, "Theo van Gogh, 1857 to 1891: Art Dealer, Collector, and Brother of Vincent" (Amsterdam: Van Gogh Museum, 2002)

・ほどほどの教養がある客に

Simon Schama, "The Power of Art" (London: BBC Books, 2006).

・そんなことが起こった

ヴァインセントからテオへの手紙 (1876 年 1 月 10 日)。 <http://www.webexhibits.org/vangogh/letter/3/050.htm>

・自分たちの長年の夢

母アンナからテオへの手紙 (1873 年 5 月 31 日)。アンナに関するエッセイ ([http://vangoghletters.org/vg/context\\_1.html](http://vangoghletters.org/vg/context_1.html)) によると、ヴァインセントが「家族の冠」を受け継ぐとみなされていた時期もあったが、両親はむしろテオへの手紙に「体に気をつけて。あなたは私たちの喜びと冠です」「私たちの喜びと冠であってください。それが私たちの最も大切な願いです」と書き添えていた。「冠のメタファーは、それを戴く人という以上に、家族全体の荣誉と恩恵を表していたと考えられる」。ヴァインセントがポリナーージュで道をそれたと思ったアンナは、テオにこう書き送っている。「私たちの希望を託した宝冠を長男が脱ぎ捨てた今、2 人目の息子が宝冠をかぶりなおすでしょう」

・精神科に入院させようとした

ヴァインセントからテオへの手紙 (1881 年 11 月 18 日)。 <http://vangoghletters.org/vg/letters/let185/letter.html>。注釈 (note 3) に父親がヴァインセントを病院に入れようとしていることが記されている。

・偽りに満ちている

テオから妹エリザベートへの手紙 (1885 年 10 月 13 日)。 <http://www.webexhibits.org/vangogh/letter/17/etc-fam-1886.htm>

・新たな使命

Debora Silverman, "Van Gogh and Gauguin: The Search for Sacred Art" (New York: Farrar, Straus and Giroux, 2000)

・革命家か、あるいは反抗分子として

ヴァインセントからテオへの手紙 (1884 年 9 月 22 日前後と 28 日前後)。 <http://vangoghletters.org/vg/letters/let461/letter.html>

・それぞれの良いところと高潔なところを

テオからヨハンナ・ボンゲルへ (1887 年 8 月 1 日)。H. van Crippe, ed., "Brief Happiness: The Correspondence of Theo van Gogh and Jo Bonger" (Amsterdam: B. V. Waanders Uitgeverij, 2000) より。

・フランドル地方で家畜の番をする男が着ているような

Colt, "Brothers"

・中間色の調和ではない

ヴァインセントからホレス・M・リーベンスへの手紙（1887年8-10月）。<http://www.webexhibits.org/vangogh/letter/17/459a.htm>

・テオを描いたと思われる「自画像」

2011年6月にアムステルダムゴッホ美術館は、長年「麦わら帽子をかぶった自画像」とされてきたゴッホの作品がテオを描いたものだったと発表。同館のルイ・ファン・ティルボー上級研究員はアントワープとパリで開催される回顧展を前に、白いシャツに青い上着を羽織り、青い蝶ネクタイを締めて黄色い麦わら帽子をかぶった「自画像」を「弟テオの肖像」と判定した。数日後にブログ「Blouin ArtInfo」は研究者の反応として、数多く残されている「自画像」のなかにテオの肖像画がもう1枚あるだろうという芸員のペリンダ・トムソンの見解を紹介している（Blouin ArtInfo, June 21, 2011, <http://blogs.artinfo.com/artintheair/2011/06/21/is-an-1887-van-gogh-self-portrait-really-of-theo>）。

## 9. ボケとツッコミ——液体と容器

・金切り声をあげる

ジェフ・エメリックとハワード・マッセイの共著『ザ・ビートルズ・サウンド 最後の真実』（奥田祐士訳、河出書房新社、2016年）。そのほかのエメリックの引用も同書より。

・ハウリングをこんなふうにするレコード

シェフ「ジョンとヨーコ ラストインタビュー」

・耳障りなコードを弾く

Tim Riley, "Lennon: The Man, the Myth, the Music. the Definitive Life" (London: Virgin Books Limited, 2011)

・音程をわざとはずし

ジョン・レノン&オノ・ヨーコのアルバム『ダブル・ファンタジー』のプロデューサー、ジャック・ダグラスはPBSのドキュメンタリー「LennoNYC」(directed by Michael Epstein)で次のように語っている。「おもしろいのは、彼が4弦のチューニングをわざと間違っていたことだ。Dフラットに合わせていたから、なぜかと聞いたら……彼はこう答えた。『ビートルズで録音するときはたいいモノ・ミックスで、ラジオで流れていたから、伯母のミミに言われたことがある。ジョン、ギターの人があるあなたなの?』。ジョンは『そうだよ。ちょっとだけ音がはずれているのが僕さ』と言っていたそう。それ以来の習慣だった。もっとも、筆者より耳がいい人々に言わせれば、ビートルズの録音の多くでジョンのギターの音程は合っているという。

・荒削りで品のない音

筆者とリチャード・ダニエルボアのインタビュー（2012年7月24日）。

・ちょっと反抗的なこと

Norman, "John Lennon"

・とてもいい性格だった！（笑い）

Kevin Howlett, "The Beatles: The BBC Archives: 1962-1970" (New York: Harper Design, 2013).

・駆け引きをしたい

マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」

・ジョンのそういうやり方

Paul McCartney のインタビュー。Paul Gambaccini, Rolling Stone, January 31, 1974, <http://www.rollingstone.com/music/news/paul-mccartney-is-not-dead-and-neither-is-the-past-19740131?print=true>。

・横道の思考

シンシア・レノン「ジョン・レノンに恋して」（吉野由樹訳、河出書房新社、2007年）

・エネルギーと注意力の発散

Frank Barron, "No Rootless Flower: An Ecology of Creativity" (Cresskill, NJ: Hampton Press, 1995)

・本当に世界を変えているのだから

YouTubeにCMの動画が投稿されている。"Here's to the Crazy Ones (1997)," posted by vintagemacmuseum, May 23, 2010, <http://www.youtube.com/watch?v=tigtLSHhTPg>

・また最初から始まるのだった

Francoise Gilot and Carlton Lake, "Life with Picasso" (New York: Anchor Books, 1989).

・「ヘルプ!」のデモテープ

YouTubeに動画が投稿されている。"John Lennon's Original Tempo 'Help!' [Home Demo]. 1965," posted by xXOneHotLennonXx, November 4, 2011, <http://www.youtube.com/watch?v=MR6r9-sRfoo>.

・窓から飛び降りたくなるような

シェフ「ジョンとヨーコ ラストインタビュー」

・不満を言っている

Wenner, "Lennon Remembers"

・2つが1つになる

ドナルド・ホルの講演より（2009年6月、ベニントン・ライティング・セミナー）。

・ちょっとした会話でも

マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」

・思考がくもるだけだ

同上

・1000回はトリップした

Wenner, "Lennon Remembers"



・マイクの周りで揺れながら  
エメリック、マッセイ [ザ・ビートルズ・サウンド]

・さまざまなノイズを繰り返すテーブルブ  
ルインソン [ザ・ビートルズ]

・物質世界  
"The Beatles Bible (ザ・ビートルズ・バイブル)" を参照。http://www.beatlesbible.com/songs/  
tomorrow-never-knows

## 10. ひらめきと努力——夢想家と実務家

・あながち間違いではない  
Randall Stross, "The Wizard of Menlo Park: How Thomas Alva Edison Invented the Modern  
World" (New York: Random House, 2008)

・99%の努力  
Wolfgang Mieder, Stewart A. Kingsbury, and Kelsie B. Harder, eds., "A Dictionary of American  
Proverbs: Oxford Paperback Reference" (Oxford: Oxford University Press, 1992)

・細かいところは周囲に任せ  
Kathleen McAuliffe, "The Undiscovered World of Thomas Edison," Atlantic, December 1995,  
http://www.theatlantic.com/magazine/archive/1995/12/the-undiscovered-world-of-thomas-  
edison/305880/

・結果志向  
John-Steiner, "Creative Collaboration "

・ときどき思い悩む  
兄弟の性格とウィルバーの思いについては以下を参照。Tom D. Crouch, "The Bishop's Boys: A Life of  
Wilbur and Orville Wright" (New York: W. W. Norton, 1989)

・それを実現するのは  
同書は兄弟の違いやウィルバーが主導的な役割だったことについても詳しい。

・5840 万ドル  
"In the Saleroom: Jeff Koons' Balloon Dog (Orange)," November 13, 2013, http://www.christies.  
com/features/in-the-saleroom-jeff-koons-balloon-dog-orange-4222-3.aspx. 会場での落札価格は 5200  
万ドルだったが、保険料などが加わって最終的に 5840 万 5000 ドルとなった。

・コーシャ・ヴァン・ブリュッゲン

Guy Raz, "An Art Factory Goes Out of Business," NPR.org, http://www.npr.org/templates/story/  
story.php?storyId=127239760. カールソンが単独で手がけた芸術作品はほとんどない。このような場合、実  
務家は、自分の提案をパートナーやスタッフが実現するという意味で夢想家でもある。

・別の事業を始めた  
"Carlson Arts LLC Re-Launches Company Providing Custom Fabrication Services for Artists,  
Architects and Other Design Professionals," November 16, 2010, http://www.prnewswire.com/  
news-releases/carlson-arts-llc-re-launches-company-providing-custom-fabrication-services-for-  
artists-architects-and-other-design-professionals-108444334.html

・笑いの感覚  
"Seinfeld: How It Began," on Seinfeld, seasons 1 and 2 (Sony Pictures Home Entertainment,  
2004)

・レゴでスター・ウォーズのモデルを組み立てる  
"6 Days to Air"

・主な登場人物はマットとトレイが演じ分ける  
http://www.imdb.com/title/tt0121955/

・27 万ドル  
Vanessa Grigoriadis, "Still Sick, Still Wrong," Rolling Stone, March 8, 2007

・マクドナルドに駆け込んだ  
筆者とアーサー・ブラッドフォードのインタビュー (2013 年 8 月 9 日)。

・週に 1 回は  
筆者とジェイソン・マクヒューのインタビュー (2013 年 9 月 27 日)。

・着実に仕事をするタイプ  
筆者とケビン・モリスのインタビュー (2013 年 10 月 17 日)

・債務危機やウィネリクスについて  
筆者とブラッドフォードのインタビュー。

・経験がない人にはとてつもない苦勞だった  
筆者とモリスのインタビュー (2013 年 12 月 75 日)

・掛け声をかけるだけ  
Jaime J. Weinman, "South Park Has a Silent Partner," Maclean's, April 23, 2007.

## 11. 役割の交代——生成と共鳴

・延々といじり倒す

筆者とマクヒューのインタビュー（2013年12月13日）。

・心の支えとする類の励まし

Glyer “The Company They Keep” より。Glyer は「共鳴」という言葉を Karen Burke LeFevre から、LeFevre は Harold Lasswell から引用している。Elizabeth G. Peck and JoAnna Stephens Mink, eds., “Common Ground: Feminist Collaboration in the Academy” (Albany: SUNY Press, 1998) を参照。トルキンの「レイシアン」の詩を最初に読んだのはルイスだと指摘する歴史学者もいるが、ハンフリー・カーペンターは、1926年にルイスが昔の恩師からおさなりの感想を聞いたとしている。ハンフリー・カーペンター「J・R・R・トルキン——或る伝記」（菅原啓州約，評論社，1982，2002年）

・文学にとってそれだけ重要な作品だという思い

カーペンター「J・R・R・トルキン」

・自分を励ましてくれた

ルイスはトルキンの表現が気に入らないと、「もっとよくできるはずだ、できるよ！」などと励ました。Glyer, “The Company They Keep”

・彼の進軍する憎しみの軍団

同上

・文脈に取り入れられている

同上

・のべ3億3500万部

Ed Grabianowski, “The 21 Best-Selling Books of All Time,” HowStuffWorks.com, December 19, 2011; “List of Best-Selling Books,” Wikipedia, January 26, 2014, [http://en.wikipedia.org/w/index.php?title=List\\_of\\_best-selling\\_books&oldid=592551463](http://en.wikipedia.org/w/index.php?title=List_of_best-selling_books&oldid=592551463)

・残酷なほど率直になる

Glyer “The Company They Keep” より。ルイスの兄ウォレンが“The Collected Letters of C. S. Lewis” に記した序文からの引用。

・子守にたとえる

George Meyer のインタビュー。Eric Spitznagel, Believer, September 2004, <http://is.gd/0BlgRj>

・赤ん坊の具合が悪くなれば

アダム・グラント「[与える人]こそ成功する時代」（楠木健訳，三笠書房，2014年）

・沈む心配はない

マシュー・スワンソンから筆者へのメール（2012年11月3日）。

## 12. 「すべては対照的だ」——弁証の心理学

・状況的なきっかけ

Walter Mischel, ‘Personality and Assessment’ (New York: Psychology Press, 2013)

・監房のバケツが排泄物であふれても

“Quiet Rage: The Stanford Prison Experiment,” directed by Kim Duke (BBC, 2002)

・振る舞いに合わせて道具を選ぶ

筆者とフランク・サロウェイのインタビュー（2012年11月14日）。

・現状維持を好む

Frank J. Sulloway, “Born to Rebel: Birth Order, Family Dynamics, and Creative Lives” (New York: Vintage Books 1997)

・テニス、陸上など

Frank J. Sulloway, “Why Siblings Are Like Darwin’s Finches: Birth Order, Sibling Competition, and Adaptive Divergence Within the Family,” in The Evolution of Personality and Individual Differences, eds. David M. Buss and Patricia H. Hawley (Oxford: Oxford University Press, 2010)

・三振も兄より多い

筆者とサロウェイのインタビュー。

・「水って何?」

David Foster Wallace, “This Is Water” (Boston: Little, Brown, 2009).

・根本的な帰属の誤り

Lee Ross, “The Intuitive Psychologist and His Shortcomings: Distortions in the Attribution Process,” in Advances in Experimental Social Psychology, vol. 10, ed. L. Berkowitz (New York: Academic Press, 1977)

・90%の若者が

David Belton, “American Experience: The Amish” (PBS, 2012)

・永遠の青年

デイヴィッド・シェンク「天才を考察する——「生まれか育ちか」論の嘘と本当」（中島由華訳，早川書房，2012年）によると，才能や天分は生まれながらの遺伝的な資質というより，社会的および文化的交流のなかで発達する能力である。

・停滞して刺激を失ってしまう

ウィリアム・ジェームズからアリスへの書簡（1878年12月26日）。William James, “The Letters of William James: Volume 1, ed. Henry James” (Boston: Atlantic Monthly Press, 1920). [www.gutenberg.org/ebooks/40307](http://www.gutenberg.org/ebooks/40307) (プロジェクト・グーテンベルク，2012年)

・対極的な特徴を「悪い」と感じる  
チクセントミハイ「クリエイティビティ」を参照。創造的な特徴の対極性に関する彼の考察はカリフォルニア州立大学のサイトでも閲覧できる（“What Is Creativity?” California State University）。

・行ったり来たりする  
Alfonso Montuori, “Frank Barron: A Creator on Creating,” Journal of Humanistic Psychology 43 (2003): 7, <http://www.ciis.edu/Documents/Academic%20Departments/TID/Frank%20Barron-JHP.pdf>.

・積極的分離  
この理論の概論は <http://positiveintegration.com> を参照。

・選手に報酬を払わない  
“6 Days to Air”

・人間関係のようなもの  
筆者とヴァーノン・チャットマンのインタビュー（2013年11月12日）。

・ありえない！  
“6 Days to Air”

・すべては対照的だ  
シェフ「ジョンとヨーコ ラストインタビュー」

・自分を守るために排除したもの  
ウィリアム・トッド・シュルツから著者へのメール（2012年9月23日）。

・王様の醜い側面  
筆者とブランチのインタビュー。

・彼女はクビだね  
“Subversive, Satirical and Sold Out”

・ジョブズが夢想家  
アイザックソン「スティーブ・ジョブズ」

・人材の管理などの責任  
ウォズニアック「アップルを創った怪物」

・1人の人間が設計した  
Gary Wolf, “The World According to Woz,” Wired, September 1998, [http://www.wired.com/wired/archive/6.09/woz\\_pr.html](http://www.wired.com/wired/archive/6.09/woz_pr.html)

・壮大な物語の世界  
Glyer “The Company They Keep”

・善と悪の関係  
カーベンター「J・R・R・トールキン」

・自分が軽妙に論じる物事  
Glyer “The Company They Keep”

・2つの極のあいだを  
筆者とチャットマンのインタビュー。

### 13. 心のなかの「他人」——創造的思考の対話

・自分が羨い羨がる自然のなかに  
Rainer Maria Rilke, Letters to a Young Poet, trans. Joan M. Burnham (San Francisco: New World Library, 2000), Kindle edition. (参考：リルケ「若き詩人への手紙、若き女性への手紙」高安国世訳、新潮社、1953年)

・ドゥイノの悲歌  
Mark M. Anderson, “The Poet and the Muse,” Nation, June 14, 2006.

・積極的に売り込んだ  
Sven Birkerts, “Readings” (Minneapolis: Graywolf Press, 1999) に次のように書かれている。「(リルケは) 浮世離れていたと思われているかもしれないが、実際は自分を売り込むことに長けていた。若い時代に書いた詩や文章、戯曲をドイツや中欧のさまざまな編集者や出版社に送っていた(純粋な魂の持ち主で、市場の駆け引きとは縁がないというリルケの一般的なイメージは、後年に生まれたものだ。出版人アントン・キッペンベッグの熱意と寛大で裕福な友人たちのおかげで、自分の女神の影響を存分に受けることができた)」

・自分以外の存在との関係  
対象関係論については Victor Daniels のサイトが参考になる (the Psychology Department of Sonoma State University: <http://www.sonoma.edu/users/d/daniels/objectrelations.html>).

・自我となる  
Donald W. Winnicott et al., “Psycho-Analytic Explorations” (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1989)

・言葉を発しなくても  
Charles Fernyhough, “Alien Voices and Inner Dialogue: Towards a Developmental Account of Auditory Verbal Hallucinations,” New Ideas in Psychology 22 (2004)

・他人とどのように関わるか  
ゴールマン「SQ 生き方の知能指数」

・精神的な健康と共感性  
ダニエル・J・シーゲル「脳をみる心、心をみる脳：マインドサイトによる新しいサイコセラピー——自分を変え

『脳と心のサイエンス』（山藤奈穂子，小島美夏訳，星和書店，2013年）

・実際には存在しないもの

Paul Bloom, "First Person Plural," Atlantic, November 2008, <http://www.theatlantic.com/magazine/archive/2008/11/first-person-plural/307055/>

・飛び出してくる

『若き詩人への手紙』の序文より。Lewis Hyde, introduction to "Letters to a Young Poet and the Letter from the Young Worker", ed. Charlie Louth (New York: Penguin Books, 2013)

・自分が観衆になっている

Paul Zollo, "Songwriters on Songwriting" (Cambridge, MA: Da Capo, 2003)

・あなたの一部ではないのと同じくらい

ヘンリー・デービッド・ソロー 『ウォールデン 森の生活』（講談社学術文庫，岩波文庫など）第5章 "Solitude" (<http://thoreau.eserver.org/walden05.html>) より。

・レナード・コーエンとか

Elizabeth Gilbert, "Your Elusive Creative Genius," February 2009, [http://www.ted.com/talks/elizabeth\\_gilbert\\_on\\_genius.html](http://www.ted.com/talks/elizabeth_gilbert_on_genius.html)

・ショーが始まるのを待っている

Zollo, "Songwriters on Songwriting"

・模倣から独創性に到達する

"Poetry Student Workshop at the White House," May 11, 2011, <http://www.whitehouse.gov/photos-and-video/video/2011/05/11/poetry-student-workshop-white-house>. ビル・コリンズの発言は 31:15 ごろ。

・内的な対話に発展していく

難しいのは、このプロセスのすべてを自分で完全には意識できないことだ。コリンズの言う「ひたすら模倣する」段階は、ジャーナリストで作家のハンター・S・トンプソンがスコット・フィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』を何回も書き写して独学したようなかたちで意識することもできる。私自身も、執筆中にデビッド・フォスター・ウォレスやマイケル・ポーランが頭をよぎるときがある。夢中で読んだすべての作家やライターの影響を受け、人との会話で吸収したリズムや意味、カーラジオや町で見かけた看板から飛び込んできた言葉が私のなかでこたまって混じり合い、私のスタイルに結びついている。ただし、本物の心の声はスープのようなもので、うまく混ざったときに最高の味になる。さまざまな材料を個別に味わうのではなく、スープ全体を味わうのだ。

そのような創作は派生的だという批判も、作品の派生的な側面が明白で、オリジナルだと感じさせるほど混じり合っていないという意味だ。T・S・エリオットは「未熟な詩人は模倣し、熟練の詩人はこっそり盗み、邪悪な詩人は流用したものの価値をおとしめ、善良な詩人はより優れたものにするか、少なくとも違いを生む」と述べている。創作活動とは、周囲のものを自分の内に取り込んで、何かしら新しいもの（エリオットいわく、「独創的で、引き裂いたものとはまったく違うもの」）を外に出すことだ。ジェフ・バックリィがレナード・コーエンをカバーした「ハレルヤ」、ガス・ヴァン・サントがシェイクスピアの「ヘンリー四世 第1部」をもとにした映画

『マイ・プライベート・アイダホ』などが好例だろう。影響を感じることができ、もとの言葉が見てとれるときもあるが、まったく新しい作品になっている。

・全員が同じ疑問を持つまで

スーザン・ケイン 『内向型人間の時代 社会を変える静かな人の力』（古草秀子訳，講談社，2013年）

・紙切れに詩を

Shotton and Schaffner, "John Lennon"

・落ち着くんだ

デイヴィス 『ビートルズ』

・誰かと一緒に過ごす

筆者とテンジン・ゲシェー・テトンのインタビュー（2010年11月15日）。名前の表記は"His Holiness the Dalai Lama and Victor Chan," The Wisdom of Forgiveness (New York: Riverhead Books, 2004) を参照した。 [http://www.wisdomofforgiveness.com/ex\\_intro.htm](http://www.wisdomofforgiveness.com/ex_intro.htm) に抜粋がある。

・エマソンが所有する土地

ソロー協会の年次総会の講演より（2007年7月14日）。Richard Smith, "Thoreau's First Year at Walden in Fact & Fiction," <http://thoreau.eserver.org/smith.html>

・私の詩が息づく庭園

Hyde の序文

・『若き詩人からの手紙』

同上

## 第4部 距離

### 14. 創造的な修道僧と結合体双生児——究極の距離

・それぞれ自分のプロジェクトにも

ジャドソン 『分子生物学の夜明け』

・少々離れることもできた

Francis Crick, "What Mad Pursuit: A Personal View of Scientific Discovery" (New York: Basic Books, 1990)

・やりたくなければやらない

筆者とナッシュおよびクロスビーのインタビュー。

・物理的にほとんど接触しないベア

David Littlejohn が "The Ultimate Art: Essays Around and About Opera" (Berkeley: University of

California Press, 1992)で、ほとんど接触しない例を挙げている。[[シュトラウスとホフマンスタールの] 往復書簡を読んでいると、1913年3月にイタリアと一緒に車で旅したことに驚かされる。2人が直接会った数少ない機会だ。誘ったのはいつものようにシュトラウスで、ホフマンスタールはいつものように拒否した。[[北部トレントの) アーラから車で一緒に行こうという親切で魅力的な誘いは思いもよらず、私のあらゆる計画と簡単には合いそうにない。しかし……この個人的な接触は(私たちのあらゆる経験を思い返しても経験はないが)、重要な共同作品に大きな恩恵をもたらすかもしれない。当時2人が共同で制作していたオペラ『影のない女』のことだ]

・いつも言い逃れていた

Edward Sackville-West, ed., "A Working Friendship: The Correspondence Between Richard Strauss and Hugo von Hofmannsthal" (London: Collins, 1961).

・誠意をもって扱ってほしい

「それぞれの内面と外部と隔離されている中核は、神聖で最も守るべきものだ」というDonald・ウィニコットの指摘 (Lesley Caldwell and Angela Joyce, "Reading Winnicott," New York: Routledge, 2011)を思い出すと、ホフマンスタールの懇願が興味深くなる。ホフマンスタールは次のように書いている。「私はあなたの想像よりはるかに変わり者だ。あなたが知っているのは、私のほんの一部だけ、表面にすぎない。私を支配する要素はあなたには見えないのだ。だから、あなたが私を急かさないことに感謝している……どうか、間接的だとしても、急かしたりしないでほしい」。ホフマンスタールは自分の想像の要素が、病院の殺菌された器具のように、ある種の人間関係の空気に触れたとたんに汚染されると言いたかったようだ。[[約束事などを) 思い出させないでほしい。そのようにされると、戒められたから思い出したことになる。そのような問題に関する私の気質は奇妙なもので、ある可能性(古典から主題を引き出せること)についてあなたと話をしてしまうと、あなたが繰り返し言及し、あなたがそのアイデアを受け入れて理解するという状況がすべてを台無しにして、そのアイデアを私の思考と夢からおそらく永遠に追い出してしまふ」 Sackville-West, "A Working Friendship"

・議会でも町でも

Alfred Habegger, "My Wars Are Laid Away in Books: The Life of Emily Dickinson" (New York: Random House, 2002).

・ドアを細く開けて

同上

・純潔を表す白い衣装

同上

・実際に書いたものの10分の1にすぎない

Emily Dickinson Museum, "Emily Dickinson's Letters," <http://www.emilydickinsonmuseum.org/letters>.

・情熱と献身

筆者とクリストファー・ベネフィのインタビュー (2010年6月29日)。

・特別な共感

Richard Benson Sewall, "The Life of Emily Dickinson, vols. 1.2" (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1994)

・指導者

Brenda Wineapple, "White Heat: The Friendship of Emily Dickinson and Thomas Wentworth Higginson" (New York: Random House, 2009)

・人生の悪人

同上

・「想像力」そのもの

Ellen Louise Hart and Martha Nell Smith, eds., "Open Me Carefully: Emily Dickinson's Intimate Letters to Susan Huntington Dickinson" (Ashfield, MA: Paris Press, 1998)より。「スーザンになれたらと想像し、スーザンだったらよかったのにと夢をみる」

・シェイクスピアに続く知識の源

同上。「シェイクスピアを除いて、あなたは生きている誰よりも多くの知識を私に話してくれた」

・200通以上の書簡と250編の詩

筆者とベネフィのインタビュー。

・狂信的な崇拜なのです。些細なことでは決してありません

Hart and Smith, "Open Me Carefully"

・刺激的な情熱

Hart and Smith, "Open Me"

・エリザベス・バレット・ブラウニング

Paraic Finnerty, "Emily Dickinson's Shakespeare" (Amherst: University of Massachusetts Press, 2008)

・ハーバース・マガジン

Roger Lundin, "Emily Dickinson and the Art of Belief" (Grand Rapids, MI: Wm. B. Eerdmans, 2004)

・ヒギンソンの手紙

Thomas Wentworth Higginson, "Letter to a Young Contributor," Atlantic Monthly, April 1, 1862, <http://www.theatlantic.com/magazine/archive/1862/04/letter-to-a-young-contributor/305164/>.

・尋ねる人もいないのです

Thomas Wentworth Higginson, "Emily Dickinson's Letters," Atlantic Monthly, October 1891, <http://www.theatlantic.com/past/unbound/poetry/emilyd/edletter.htm>.

・扉は閉じられる

サイト"Poets.or"より。 <http://www.poets.org/viewmedia.php/prmMID/20283>

・興味をそそられ、驚嘆した

Wineapple, "White Heat"

・近くに住んでいなくてよかった  
Habegger, "My Wars Are Laid Away in Books"

・ハイリー・センシティブ・パーソン  
エレン・N・アーロン「ささいなことにすぐに「動揺」してしまうあなたへ。」(富田香里訳, 講談社, 2000年)

・外向的な人は最大限にする  
H. J. Eysenck and M. W. Eysenck, "Personality and Individual Differences: A Natural Science Approach" (New York: Plenum, 1985)

・パフォーマンスは低下する  
R. M. Yerkes and J. D. Dodson, "The Relation of Strength of Stimulus to Rapidity of Habit-Formation," Journal of Comparative Neurology and Psychology 18 (1908). 以下も参照. "Classics in the History of Psychology" <http://psychclassics.yorku.ca/Yerkes/Law/>

・おそろいのスーツ  
ギルバート&ジョージ (Gilbert and George) のキーワードで画像検索をすればひと目でわかるだろう。「おそろい」と「まったく同じ」は同じではない。

・2人で1人のアーティスト  
Gilbert and George のインタビュー. Journal of Contemporary Art, n.d., <http://www.jca-online.com/gilbertandgeorge.html>

・すべて2つある  
筆者とアンドリュース・アンドリュースのインタビュー (2011年9月9日) と Michael Schulman, "Mirror Images in the DJ Booth," New York Times, January 5, 2011 より。

## 15. 「いつも相手を驚かせようとしていた」——多様な距離感

・互いの存在を  
Donald Hall, "Ghost in the House," Unholy Ghost: Writers on Depression, ed. Nell Casey (New York: HarperCollins, 2001)

・1日に3, 4回  
Lisa Kogan, "The O Interview: Gayle and Oprah, Uncensored," O, August 2006. 同じ町に住んでいないことについては以下を参照. Frank Bruni, "The Sidekick No More," New York Times, March 18, 2011.

・初めて見た詩を  
James C. McKinley Jr., "Still Making Music Together, Far Apart," New York Times, September 27, 2013, <http://is.gd/3Y0vyw>.

・僕も見てたよ  
"Subversive, Satirical and Sold Out"

・昔とは違う  
筆者とブラッドフォードのインタビュー (2013年8月9日)。

・認めればいい  
"Penn and Teller: Reddit's Top Ten Questions," 2011 (<http://bit.ly/1fJ9Xbi>). 該当の映像は20:40ごろ。

・1冊の絵本を世に送り出した  
Paul Lewis, "Cecile de Brunhoff, Creator of Babar, Dies at 99," New York Times, April 8, 2003, <http://www.nytimes.com/2003/04/08/obituaries/08BRUN.html>.

・いつでも話せる相手  
筆者とロラン・ド・ブリュノフ、フィリス・ローズのインタビュー (2009年11月9日)。

・ときどきしか会えなくなった今では  
カーネマンの言葉はノーベル賞の公式サイトに掲載されている自伝のエッセイより。カーネマンとトベルスキーの研究は以下にわかりやすくまとめられている。Michael Lewis, "The King of Human Error," Vanity Fair, December 7, 2011, <http://www.vanityfair.com/culture/features/2011/12/michael-lewis-201112>.

・1人に1軒ずつ  
「ザ・ビートルズ・アンソロジー」

・車で1時間ほど  
同上

・とことんクールな  
Peter A. Carlin, "Paul McCartney: A Life" (New York: Touchstone, 2009)

・テレビを見ながら  
同上

・嫌なヤツになることを恐れるな  
筆者とアダム・グッドハートのインタビュー (2009年6月2日)。

・毎日の動画は近すぎる  
筆者とアビゲイル・チュリンのインタビュー (2012年3月29日)。

・自分の行動の主体は自分である  
ベレル「セックスレスは罪ですか?」

・「たのしい木曜日」  
John Steinbeck, "Sweet Thursday" (New York: Penguin, 1996)

・意識下の思考  
チクセントミハイ『クリエイティビティ』

・認められ、実践される  
Sam Mc Nerney, "Relaxation & Creativity: The Science of Sleeping on It," Big Think, May 8, 2012.

・比較的、制約を受けることもない  
筆者とグレッグ・フィーストのインタビュー (2013年6月8日).

・1人のほうがいい  
1967年1月にAP通信に語っている (Independent, January 23などで報道された).

・平常心を取り戻した  
Jonathan Gould, "Can't Buy Me Love: The Beatles, Britain, and America" (New York: Random House, 2008)

## 16. 「ないものを求める」——距離の欲情

・地球もつねに動いているから  
NASA, "What Is Microgravity?," [http://www.nasa.gov/centers/glenn/shuttlestation/station/microgex\\_prt.htm](http://www.nasa.gov/centers/glenn/shuttlestation/station/microgex_prt.htm).

・ファレルのために踊っていた  
Gottlieb "George Balanchine"

・精神的に消耗した  
Farrell, "Holding On to the Air"

・人生の振り付け  
"Elusive Muse"

・愛しはじめていた  
Farrell, "Holding On to the Air"

・憎からず思っていたその男性  
同上

・スタジオで踊っているから  
同上

・刺激が交差しなければならない

ベレル 「セックスレスは罪ですか?」

・彼はもう存在しない  
シモーネ・ヴェユイ 『重力と恩寵』 (田辺保訳, 筑摩書房, 1995年ほか)

・詩人で文学者のアン・カーソン  
Anne Carson, "Eros the Bittersweet" (Champaign, IL: Dalkey Archive Press, 1986)

・持ちつづけてはいけない  
"Elusive Muse"

・対象でありつづける  
Francine Prose, "The Lives of the Muses" (New York: Harper-Collins, 2009)

・創作活動だ  
同上

・昇華  
精神科医のジョージ・ヴァイラントは2冊の著書で適応について説明している。George Vaillant, "Adaptation to Life" (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1977); "The Wisdom of the Ego" (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1993).

・未来と懺悔が  
Acocella, "Profiles"

・セックスをしたことはない  
Farrell, "Holding On to the Air"

・導く者と受け入れる者を  
同上

・境界線ではありませんように  
Carson, "Eros the Bittersweet"

・どんなリストでも嫌だった  
Farrell, "Holding On to the Air"

・「近々」結婚するだろう  
同上

・そんなに悪い話でもない  
同上

・彼が望んでいると思っているもの  
同上

・ポールは辞めるだろう

同上

・今夜、あなたは踊らないのよ

同上

・演奏を始めてから 17 年目

ブルース・スプリングスティーンのデータベースによると、クラレンスを含むバンドの主要メンバーと初めて共演したのは 1972 年 10 月 25 日。ニュージャージー州ボイント・プレザントのシップボトム・ラウンジだった。1974 年 9 月 19 日にペンシルベニア州プリンマーのメインポイントでライブをしたときには「E ストリート・バンド」と名乗っていた。 [http://www.brucespringsteen.it/e\\_streetx.htm](http://www.brucespringsteen.it/e_streetx.htm)。

・まったくした関係

ピーター・エイムズ・カーリン「ブルース・スプリングスティーン」(近藤隆文訳、アスペクト、2013 年)

・電話 1 本で済ませようというわけか

同上

・ファレルは 23 歳だった

Anna Kisselgoff, "Suzanne Farrell Resigns from City Ballet," New York Times, May 13, 1969.

・バイク乗りと駆け落ちをしたかのように

Acocella, "Profiles"

・芸術性とは何か

Farrell, "Holding On to the Air"

・精神的な娘

"Elusive Muse"

・ダブルベッドの部屋

同上

・愛を込めて スージ

Farrell, "Holding On to the Air"

・いつから練習を始めようか

"Elusive Muse"

・6 年前に

Farrell, "Holding On to the Air"

・もはや子供ではない

筆者とトニ・ベントレーのインタビュー (2012 年 10 月 29 日)。

・赤とゴールドと黒のリボン

Farrell, "Holding On to the Air"

・ダイナミックで、生き生きと柔らかい

Arlene Croce, "Writing in the Dark, Dancing in the 'New Yorker': An Arlene Croce Reader" (New York: Farrar, Straus and Giroux, 2000)

・君には君の結婚生活がある

"Elusive Muse"

・旅の道連れ

ヴァンセントからテオへの手紙 (1879 年 8 月中旬)。 <http://www.webexhibits.org/vangogh/letter/8/132.htm>。

・自分の首を切り落とす

Colt, "Brothers"

・自分がそこにいると感じられるように

Emile Bernard, "Lettres de Vincent van Gogh a Emile Bernard," 1911, <http://www.vggallery.com/misc/archives/bernard.htm>。

・いずれ、君も

ヴァンセントからテオへの手紙 (1888 年 2 月 21 日)。 <http://vangoghletters.org/vg/letters/let577/letter.html>。

・他人とうまくやっていけない

Colt, "Brothers"

・最高の神父

ヴァンセントからテオへの手紙 (1888 年 10 月 3 日)。 <http://is.gd/Sb02fe>。

・兄のもとにも

ヴァンセントが耳を切り落としたときに弟の婚約について知っていたかどうかは、今も議論が続いている。ここ数十年は「知らなかった」という見方が一般的だが、Martin Bailey は The Art Newspaper (2009 年 12 月 30 日) で、知っていたという興味深い考察をしている。私が最も有力だと思う証拠は、1898 年 1 月 1 日にテオが婚約者に書いた手紙で (Crimpen, ed. "Brief Happiness"), 病院で兄に会ったときのことと記されている。「あなたのことを話すと、彼は明らかに誰のことかわかっていて、(結婚を) 認めてくれるかと聞くと、認めてくれたけれど、結婚を人生の主な目的にするべきではないとも言われた」

・12 月 23 日

ヴァンセントからテオへの手紙 (1888 年 12 月 23 日)。 <http://www.webexhibits.org/vangogh/letter/18/565.htm>。



・売春宿の女性  
同上

・できるかぎり君の妻へと  
ヴァンセントからテオへの手紙 (1889年4月21日)。 <http://vangoghletters.org/vg/letters/let760/letter.html>.

・「ローヌ川の星月夜」  
Jo van Gogh, "Memoir of Vincent van Gogh", <http://is.gd/jEw6HN>.

## 第5部 絶頂

### 17. 最も親密な敵——創造的な企み

・そんなヤツが本当に存在するとは  
Larry Bird, Earvin Johnson, and Jackie MacMullan, "When the Game Was Ours" (Boston: Houghton Mifflin Harcourt, 2009)

・倒さなければならぬ相手は  
同上

・彼の数字に圧倒され  
"Magic and Bird: A Courtship of Rivals," directed by Ezra Edelman (HBO Studios, 2010), <http://www.hbo.com/sports/magic-and-bird-a-courtship-of-rivals#>.

・13・3リバウンド  
Kent Hannon, "17 Indiana State," Sports Illustrated, November 28, 1977.

・ラリー・バードってヤツは本物だ  
"Magic and Bird"

・マジック・ジョンソンだ  
Bird, Johnson, and MacMullan, "When the Game Was Ours"

・スポーツ・イラストレイテッド誌を飾る顔  
Douglas S. Looney, "And for My Next Trick, I'll...", Sports Illustrated, April 30, 1979.

・開幕から無敗  
Bird, Johnson, and MacMullan, "When the Game Was Ours"

・21本中14本のシュートを失敗  
Larry Schwartz, "Plain and Simple, Bird Is One of the Best," ESPN.com, <http://espn.go.com/sportscentury/features/00014096.html>.

・最も成功しなかった人までの順位  
James P. Carse, "Finite and Infinite Games: A Vision of Life as Play and Possibility" (New York: Ballantine Books, 1987), Kindle edition.

・ミニカーを走らせるレース  
Christian Jarrett, "Faster, Higher, Stronger," Psychologist 25 (2012).

・スティーブ・ジョブズとビル・ゲイツ  
"Steve Jobs, Bill Gates and Microsoft. It's Complicated," video compilation, posted by Boomer, April 8, 2013, <http://everystevejobsvideo.com/steve-jobs-bill-gates-and-microsoft-its-complicated/>.

・エイブラハム・リンカーンとスティーブン・ダグラス  
Roy Morris Jr., "The Long Pursuit: Abraham Lincoln's Thirty-Year Struggle with Stephen Douglas for the Heart and Soul of America" (Washington, DC: Smithsonian, 2008).

・ジャック・ニクラスとアーノルド・パーマー  
Ian O'Connor, "Arnie & Jack: Palmer, Nicklaus, and Golf's Greatest Rivalry" (Boston: Houghton Mifflin Harcourt, 2008).

・モハメド・アリとジョー・フレイザー  
"Thrilla in Manila" (HBO, 2009.)

・クリス・エバートとマルチナ・ナブラチロワ  
"Unmatched," directed by Lisa Lax and Nancy Stern Winters (ESPN Films, 2010).

・勝てないことは  
Mark Stephens (Robert X. Cringely) がヴァニティ・フェア誌の取材でゲイツに話を聞いた際の発言。記事は掲載されなかった。Robert X. Cringely, "Masters Tournament," Cringely.com, April 9, 2010, [www.cringely.com/2010/04/09/masters-tournament/](http://www.cringely.com/2010/04/09/masters-tournament/)

・時価総額世界1位  
Kristin Schweizer, "Apple Overtakes Coca-Cola as Most Valuable Brand," Bloomberg Technology, September 30, 2013, <https://www.bloomberg.com/news/articles/2013-09-30/apple-overtakes-coca-cola-as-most-valuable-brand-study-finds>

・素晴らしい勝利  
Roy Basler, ed., "The Collected Works of Abraham Lincoln, vol. 2" (New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1953).

・リンカーンの前に屈した  
Russell McClintock, "Lincoln and the Little Giant," New York Times, March 29, 2011, <http://opinionator.blogs.nytimes.com/2011/03/29/lincoln-and-the-little-giant/>.

・これで2敗目だ  
"Magic and Bird"

・本当はあったな  
Bird, Johnson, and MacMullan, "When the Game Was Ours"

・それ以外の80試合  
"Magic and Bird"

・ようやくマジックを倒した  
Bird, Johnson, and MacMullan, "When the Game Was Ours"

・乗り越えられたのかどうか  
同上

・相手が苦しんでいるとわかることも  
"Magic and Bird"

・練習を怠らなかつた  
同上

・ビールでも飲みに行こう  
Bird, Johnson, and MacMullan, "When the Game Was Ours"

・そういうものだ  
"Magic and Bird"

・選手としては劣つただろう  
アンドレ・アガシ「OPEN——アンドレ・アガシの自叙伝」(川口由紀子訳、ベースボールマガジン社、2012年)より。ジャーナリストで回顧録を多く手がけるJ.R. モーリンガーによる口述だが、彼は著者に名を連ねることを拒否した。「助産婦は赤ん坊を家に連れて帰らない。これはアンドレの回顧録で、私たちの回顧録ではない」(Charles McGrath, "A Team, but Watch How You Put It," New York Times, November 11, 2009, <http://www.nytimes.com/2009/11/12/books/12agassi.html>).

・競争の客観的状況から独立した  
Gavin J. Kilduff, Hillary Anger Elfenbein, and Barry M. Staw, "The Psychology of Rivalry: A Relationally Dependent Analysis of Competition," *Academy of Management Journal* 53 (2010).

・5キロで平均25秒  
Frieda Klotz, "The Upsides and Dark Sides of Rivalry: A Q&A with Gavin Kilduff," *Strategy + Business*, September 9, 2013, <http://www.strategy-business.com/blog/The-Upsides-and-Dark-Sides-of-Rivalry-A-Q-A-with-Gavin-Kilduff?gko=dddb8>.

・世界で最も広く読まれ  
Paul O'Neil, "Twin Lovelorn Advisers Torn Asunder by Success," *Life*, April 7, 1958.

・フレンチリックの田舎者  
Ira Berkow, "Larry Bird a Joy, Even When Ailing," *New York Times*, May 26, 1985, <http://www.nytimes.com/1985/05/26/sports/sports-of-the-times-larry-bird-a-joy-even-when-ailing.html>.

・パンチをお見舞いする分だけお見舞いされた  
サム・リンスキーから筆者へのメール (2014年1月30日).

・前庭の芝生を刈る  
"Magic and Bird"

・とにかく楽しいよ  
"The Announcement — the Magic Johnson Story," directed by Nelson George (ESPN, 2012.)

・同じ脳みそを半分ずつ  
"Magic and Bird"

・自分を見ているみたいだったから  
同上

・ライバル関係に拍車をかける  
Klotz, "The Upsides and Dark Sides of Rivalry"

・相手にそんなふうに見える  
デービッド・レターマンとマジック・ジョンソン、ラリー・バードのトークより (2012年4月11日).

・悪意を抱いている人  
David P. Barash, "Why We Need Enemies," *Chronicle of Higher Education*, May 6, 2013.

・自分に語りかける物語  
T. R. Sarbin, ed., "Narrative Psychology: The Storied Nature of Human Conduct" (Santa Barbara: Praeger, 1986).

・心理学者ダン・マクアダムスの言葉  
Benedict Carey, "This Is Your Life (and How You Tell It)," *New York Times*, May 22, 2007, [http://www.nytimes.com/2007/05/22/health/psychology/22narr.html?pagewanted=print&\\_r=0](http://www.nytimes.com/2007/05/22/health/psychology/22narr.html?pagewanted=print&_r=0).

・目的を遂行した物語  
Dan P. McAdams, "The Redemptive Self: Generativity and the Stories Americans Live By," *Research in Human Development* 3 (2006).

・黒い犬  
アンソニー・ストー「天才はうつをいかにてなすけたか」(今井幹晴訳、求龍堂、2007年)

・勝利の戦いの物語  
Carey, "This Is Your Life."

・パートナーのパフォーマンスを向上させる  
Kilduff , Elfenbein, and Staw, "The Psychology of Rivalry"

・親密な敵  
William James to Dickinson S. Miller, August 30, 1896, Atlantic Monthly, <http://www.theatlantic.com/past/issues/96may/nitrous/jamii.htm>.

・離婚はありえない  
Larry Bird and Bob Ryan, "Drive: The Story of My Life" (New York: Doubleday, 1989).

・ファイナルで対戦する可能性  
"Magic and Bird"

・HIV感染と引退を発表  
Rick Weinberg, "Magic Johnson Announces He's HIV-Positive," ESPN.com, <http://sports.espn.go.com/espn/espn25/story?page=moments/7>.

・落胆している  
Scott Jordan Harris, "The Magic of Magic and Bird," RogerEbert .com, May 19, 2012, <http://www.rogerebert.com/far-flung-correspondents/the-magic-of-magic-and-bird>.

・変わってしまった  
"Magic and Bird"

・当たり前だと思えそうにない  
同上

## 18. ルーク・スカイウォーカーとハン・ソロ——クリエイティブ・ペアとコーペティション

・20世紀の近代絵画の基礎  
Paul Trachtman, "Matisse & Picasso," Smithsonian, February 2003, <http://www.smithsonianmag.com/arts-culture/matisse-amp-picasso-75440861/#ixzz2rozHIm7N>.

・チェスの試合  
同上

・対決  
Sarah Boxer, "Artists Dueling, Curators Dealing," New York Times, February 9, 2003, <http://www.nytimes.com/2003/02/09/arts/art-architecture-artists-dueling-curators-dealing.html?pagewanted=all&src=pm>.

・ジョセフ・コンラッドの短編にちなんで

John Richardson, "Between Picasso and Matisse," Vanity Fair, February 2003, <http://www.vanityfair.com/style/features/2003/02/picasso-matisse200302>.

・戦いつづけるために  
Carse, "Finite and Infinite Games"

・顔を両手で覆う男性  
John Abell, "This Day in Tech," Wired, August 6, 2009, [http://www.wired.com/thisdayintech/2009/08/dayintech\\_0806/](http://www.wired.com/thisdayintech/2009/08/dayintech_0806/).

・悪の帝国  
Leander Kahney, "Mac Loyalists: Don't Tread on Us," Wired, December 2, 2002, <http://www.wired.com/gadgets/mac/news/2002/12/56575?currentPage=all>.

・アップルソフトBASIC  
Wikipediaを参照。 [http://en.wikipedia.org/wiki/Applesoft\\_BASIC](http://en.wikipedia.org/wiki/Applesoft_BASIC)

・マッキントッシュのソフトウェアが占める  
Caroline Moss, "In 1983, Steve Jobs Hosted Apple's Version of 'The Dating Game' and Bill Gates Was a Contestant," Business Insider, November 24, 2013, <http://is.gd/8QozGw>.

・当時は重要な戦いだった  
Daniel Eran, "Mac Office, \$150 Million, and the Story Nobody Covered Sunday," Roughly Drafted, March 11, 2007, <http://is.gd/M320F8>.

・それぞれのブランド名で  
トヨタ・アイゴ (Aygo), プジョー 107, シトロエン C1. "Peugeot Follows Toyota Car Recall," BBC, January 30, 2010, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/business/8489079.stm>.

・コンパクトディスク  
"How the CD Was Developed," BBC, August 17, 2007, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/technology/6950933.stm>.

・階層的な立場  
Elaine N. Aron, "Ranking and Linking, for Better and for Worse," January 9, 2010, Attending to the Undervalued Self (blog), <http://www.psychologytoday.com/blog/attending-the-undervalued-self/201001/ranking-and-linking-better-and-worse>.

・個人主義を貫く  
V. Frank Asaro, "Universal Co-Opetition: Nature's Fusion of Competition and Cooperation" (New York: Bettie Youngs Book Publishers, 2011), Kindle edition.

・置いていかれたくはないのです  
シェイラ・ヘティから筆者へのメール (2013年9月1日)。

・最も有用な教授法

William James, "Talks to Teachers on Psychology; and to Students on Some of Life's Ideals"  
(New York: Henry Holt, 1899), <https://archive.org/details/talkstoteacherso1899jame>.

・「ストロベリー・フィールズ・フォーエバー」

曲作りの詳細は "The Beatles Bible" を参照. <http://www.beatlesbible.com/songs/strawberry-fields-forever>

・「ベニー・レイン」

マイルズ 『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

・お互いの歌に答えること

同上

・つねに高めあっていた

"The Making of 'Sgt. Pepper,'" The South Bank Show, season 15, episode 25, June 14, 1992.

・地元の仲間

ルイソン 『ザ・ビートルズ史』によると、正式な名称は「ストロベリー・フィールド」だが地元では「フィールズ」として知られていて、「離婚や死去などで両親がそろっていない子供」が暮らす救世軍の施設だった。リバプールの歴史に詳しいジャッキー・スペンサーによれば「孤児院」でも間違っていない（スペンサーから筆者へのメール、2014年1月29日）。

・よくベニー・レインで会った

マイルズ 『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

・それとも天才なのか

シェフ 『ジョンとヨーコ ラストインタビュー』

・調和している

イアン・マクドナルド 『ビートルズと60年代』（奥田祐士訳、キネマ旬報社、1996年）

・どちらも勝ちたかった

シェフ 『ジョンとヨーコ ラストインタビュー』

・両A面

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』より。これ以前にも両A面はあった（「恋を抱きしめよう」／「デイ・トリップ・パー」1965年12月、「エリナー・リグビー」／「イエロー・サブマリン」1966年8月、「カム・トゥゲザー」／「サムシング」1969年10月）。

・2人を結びつけている

Harry, "The Paul McCartney Encyclopedia"

・鼓舞し、あるいは指示を出す

力と権威の違いについては、精神科医のエドワード・R・シャピロ（元オーステン・リッグス・センター CEO

兼メディカル・ディレクター）に話を聞いた。

・すべてを失った

"The Armstrong Lie（ランス・アームストロング ツール・ド・フランス7冠の真実）" directed by Alex Gibney (Sony Pictures Classics, 2013).

・過剰な身勝手さと同じくらい

Alexia Elejalde-Ruiz, "Are You a Niceaholic?," Chicago Tribune, January 27, 2013, <http://is.gd/zC0F3V>.

・つまり、変化がない

Asaro, "Universal Co-Opetition"

・変化の可能性さえない

Alfonso Elejauri, "Frank Barron: A Creator on Creating," Journal of Humanistic Psychology 43 (2003), <http://www.ciis.edu/Documents/Academic%20Departments/TID/Frank%20Barron-JHP.pdf>.

・「教授」と呼ばれていた

Jack Flam, "Matisse and Picasso: The Story of Their Rivalry and Friendship" (New York: Basic Books, 2008).

・どこにでもいる男だ

Michael Kimmelman, "A Matisse Encore with Picasso for Just a Week," New York Times, January 22, 1993, <http://is.gd/Tq0Zjs>.

・行儀がいいと言うより

Peter Conrad, "The Many Faces of Pablo Picasso," Observer, February 7, 2009, <http://www.theguardian.com/artanddesign/2009/feb/08/pablo-picasso-art>.

・上流社会との付き合いに苦労した

チャーリー・ローズによるジョン・エルダーフィールドとカーク・バーネットのインタビュー（2003年8月22日）。

・火あぶりの刑に処した

Laurette E. McCarthy, "Walter Pach (1883-1958): The Armory Show and the Untold Story of Modern Art" (Uniontown: Penn State Press, 2011).

・店に出る前の5人

Tyler Green, "The Response to Matisse's 'Blue Nude,'" November 3, 2010, Artinfo.com, <http://blogs.artinfo.com/modernartnotes/2010/11/the-response-to-matisse-blue-nude/>.

・アフリカの仮面

[http://www.moma.org/collection/object.php?object\\_id=79766](http://www.moma.org/collection/object.php?object_id=79766)

・狂った男の作品  
Trachtman, "Matisse & Picasso."

・20世紀で最も重大な影響を与えた作品  
Peter Plagens, "Which Is the Most Influential Work of Art of the Last 100 Years?," Newsweek, June 23, 2007, <http://is.gd/Gv2Uqn> など.

・相手の挑戦のおかげで  
エルダーフィールドとバーネドオのインタビュー.

・ロープでつながれた山登り  
"Picasso and Braque: The Cubist Experiment, 1910-1912," Kimbell Art Museum, May 29, 2011, to August 21, 2011, <http://is.gd/bPYPxm>. William Rubin et al., "Picasso and Braque: Pioneering Cubism" (New York: Museum of Modern Art, 1989) も参照.

・土曜日の夜に開催していたサロン  
Richardson, "Between Picasso and Matisse"

・マティスしかない  
Flam, "Matisse and Picasso"

・ピカソだけだ  
同上

## 19. 「誰だって力を手に入れたいさ」——明確な力と流動的な力

・最初から握っていないくちやいけいない  
"The Pez Dispenser," Seinfeld, season 3, episode 14, January 15, 1992.

・「優れているという証」  
James Boswell, "Life of Johnson," ed. Charles Grosvenor Osgood (1917).

・持続した  
リチャード・コニフ「重役室のサル 人間も組織も、こんなに「動物」だった」(勝貴子訳, 光文社, 2006年)

・選挙に敗れていた  
同上

・感情の収斂  
ゴールマン「SQ 生き方の知能指数」

・非対称的な関係の場合

このテーマについて調べた資料は手元にあるが、出典や執筆者をメモし忘れてしまい確認できなかった。原文は以下のとおり。出典などに心当たりがあれば知らせてほしい (Po2@shenk.net).

"Lateral relationships may be less intimate than asymmetrical ones. Witness two friends who look to connect with each other when each is available, to talk when each prefers to talk. Friend one will call when he most prefers to talk, but this is not likely to be when friend two most prefers to talk, and friend two will decline the call. Friend two will return the call when he most prefers to talk, but friend one is now absorbed in matters of greater preference, and he will decline the call. Each is free and independent and floating in his own universe."

"In conditions of asymmetry, this changes. The powerful one in the exchange sets the terms by which he engages. say, the hour for a call. and the supplicant agrees to these terms, makes himself available. Thus the exchange happens, it is on the volume and depth and potency of exchanges. not on any sense of equality. that intimacy is made."

・自分の立ち位置がわかっていた  
筆者とジェームズ・ワトソンのインタビュー (2013年8月21日).

・ジム(ワトソン)を突き動かしていた  
ジャドソン「分子生物学の夜明け」

・実力行使で地位を固める  
Frans de Waal, "Our Inner Ape: A Leading Primatologist Explains Why We Are Who We Are" (New York: Penguin, 2006), Kindle edition.

・他人からは反対向きに見えるように書く  
ガリンスキーの実験は以下に詳しい。"Losing Touch: Power Diminishes Perception and Perspective," [http://insight.kellogg.northwestern.edu/article/losing\\_touch/](http://insight.kellogg.northwestern.edu/article/losing_touch/).

・つま先立ちでバンザイをしよう  
Amy Cuddy のインタビュー. with Leigh Buchanan, Inc., May 1, 2012, <http://www.inc.com/magazine/201205/leigh-buchanan/strike-a-pose.html>

・持っていない人に比べて  
Dacher Keltner, Deborah H. Gruenfeld, and Cameron Anderson, "Power, Approach, and Inhibition," *Psychological Review* 110, no. 2 (April 2003)

・会社から横領したカネ  
Andrew Ross Sorkin, "Tyco Details Lavish Lives of Executives," *New York Times*, September 18, 2002, <http://www.nytimes.com/2002/09/18/business/tyco-details-lavish-lives-of-executives.html>.

・権力を手にした瞬間から  
Dacher Keltner, "The Power Paradox," *Greater Good*, December 1, 2007, [http://greatergood.berkeley.edu/article/item/power\\_paradox](http://greatergood.berkeley.edu/article/item/power_paradox).

・リスクも高い

Kate Ludeman and Eddie Erlandson, "The Alpha Male Syndrome: Synopsis," (ケイト・ルードマン, エディ・アーランドソン 『部下の心をつかむセルフ・コーチング——自ら省みることなくして、人は育たず』) <http://www.worthethic.com/the-alpha-male-syndrome.html>.

・部下が上司である教授を評価する場合より

Dacher Keltner, Jason Marsh, and Jeremy Adam Smith, "The Compassionate Instinct: The Science of Human Goodness" (New York: W. W. Norton, 2010).

・別の世界の話だから

筆者とジリアン・ローレンのインタビュー (2013年2月11日).

・フォローワーはとても大きな力を入れる

Jamie Rose, "Shut Up and Dance!: The Joy of Letting Go of the Lead — on the Dance Floor and Off" (New York: Penguin, 2011), Kindle edition.

・自分の上で起こっていることが

Keltner, Marsh, and Smith, "The Compassionate Instinct"

・他人の意図や考え

同上

・少数意見を支持した判事

グルーエンフェルドの研究はスタンフォード大学経営大学院のサイトで知った。"Better Decisions Through Teamwork," April 1, 2004, [http://www.gsb.stanford.edu/news/research/ob\\_teamdecisionmaking.shtml](http://www.gsb.stanford.edu/news/research/ob_teamdecisionmaking.shtml). グルーエンフェルドは筆者へのメール (2014年1月30日) で以下の2つの論文も挙げている。Deborah H. Gruenfeld, "Status, Ideology, and Integrative Complexity on the U.S. Supreme Court: Rethinking the Politics of Political Decision Making," *Journal of Personality and Social Psychology* 68 (January 1995); Deborah H. Gruenfeld and Jared Preston, "Upending the Status Quo: Cognitive Complexity in U.S. Supreme Court Justices Who Overturn Legal Precedent," *Personality and Social Psychology Bulletin* 26 (October 2000).

・無理な仕事を押しつけられるなど

コニフ 『重役室のサル』

・君ではなく僕だ

筆者とニール・ブレナンのインタビュー (2013年11月26日).

・双方が納得するまで

同上

・出演者を選ばせる

d'Amboise, "I Was a Dancer"

・コーランが関心を示しそうな案件

Tim Rice, "A Day in The Life of Barbara Corcoran and Her Executive Assistant," Inc., January 18, 2014, <http://is.gd/qADla5>.

・最初のシングル

David Howard, "Sonic Alchemy: Visionary Music Producers and Their Maverick Recordings" (Milwaukee, WI: Hal Leonard Corporation, 2006).

・それだけだ

"Amazing Journey: The Story of the Who," directed by Murray Lerner and Paul Crowder (Universal Studios, 2007). 特に記載がないかぎり、ザ・フーについてはこのドキュメンタリーによる。

・ステージの上でも降りてからも

同上。タウンゼントとダルトリーの姿が映っており、ほぼ間違いなくダルトリーの発言と思われる (43:30頃)。

・殴って気絶させた

このエピソードは "Amazing Journey" 以外でも頻繁に登場する。ダルトリーがラジオ司会者ハワード・スターンに語っている動画も公開されている (<http://www.youtube.com/watch?v=ZVjDbTb0420>)。

## 20. 「オーヴとやり合うのが好きなんだ」——対立

・価値観や信念や関心

Amy C. Edmondson and Diana McLain Smith, "Too Hot to Handle? How to Manage Relationship Conflict," *California Management Review* 49 (Fall 2006). <http://dianamclainsmith.com/wp-content/themes/dms/pdf/thth.pdf>.

・いつも怒鳴り合いになる

Mary McNamara, "TV Show-Running Couples: The Ultimate Working Marriage," *Los Angeles Times*, March 6, 2011, <http://articles.latimes.com/2011/mar/06/entertainment/la-ca-showrunners-20110306>.

・何から何まで嘘だらけ

Klaus Kinski, "All I Need Is Love: A Memoir" (New York: Random House, 1988).

・「礼儀正しさ」は真の協力を葬り去る

フランシス・クリックのインタビュー (BBC, 1962年12月11日). Paul Strathern, "Crick, Watson and DNA" (New York: Anchor, 1999), e-book.

・返答に戸惑った

Nova のドキュメンタリーの台本にフランクリンとウィルキンスの出会いの場面が描かれている。"Secret of Photo 51," by Gary Glassman, (PBS, April 2003), [http://www.pbs.org/wgbh/nova/transcripts/3009\\_photo51.html](http://www.pbs.org/wgbh/nova/transcripts/3009_photo51.html).

・きわめて重要だった

Francis Crick, "What Mad Pursuit: A Personal View of Scientific Discovery" (New York: Basic Books, 1990).

・フランクリンが撮影した写真

Victor K. McElheny, "Watson and DNA: Making a Scientific Revolution" (New York: Basic Books, 2004). マケルヘニーによると、ワトソンはのちに、フランクリンの下で働いていたボストクのレイモンド・ゴスリングが撮影したものであろうと指摘している。しかし、一般にフランクリンが撮影したものとされている。

・私は固まった

ジェームズ・ワトソン『二重らせん』（中村桂子、江上不二夫訳、講談社、1986年）。「The Race for the Double Helix . Providence and Personalities,」Horizons (BBC, 1974) はネットに台本が掲載されている (<http://profiles.nlm.nih.gov/ps/access/SCBBKH.ocr>) .

・2本の鎖の距離

Glassman, "Secret of Photo 51"

・同じ塩基を組み合わせる

ジャドソン『分子生物学の夜明け』

・もう1人が修正した

"The Race for the Double Helix"

・CとG

ジャドソン『分子生物学の夜明け』. Susan Aldridge, "The DNA Story," Chemistry World, Royal Society of Chemistry, April 2003, <http://www.rsc.org/chemistryworld/Issues/2003/April/story.asp>.

・それなら楽勝だ

筆者とワトソンのインタビューより、ひらめきの瞬間についてクリックの記憶は少し異なり、2月27日の夜に2人で気がついたと語っている(ジャドソン『分子生物学の夜明け』)。ワトソンは筆者のインタビューと著書『二重らせん』で、クリックの意見をもとに28日の朝、自分かららせん構造を推測したと振り返っている。

・じゃあ、やってみれば

McElheny, "Watson and DNA"

・生命の秘密

ワトソン『二重らせん』

・不幸すぎると喧嘩にならない

Alan Jay Lerner, "The Street Where I Live" (Cambridge, MA: Da Capo, 1978).

・相手の考えが正しいと認めたのは

"My Story," Collier's, December 25, 1948, <http://bit.ly/1d0w6Wj>.

・喧嘩がうまい

Crouch, "The Bishop's Boys"

・親密さを示す表現

James W. Pennebaker, "The Secret Life of Pronouns" より. Kate G. Niederhoffer and Pennebaker, "Linguistic Style Matching in Social Interaction," Journal of Language and Social Psychology (December 2002) も参照. ベネベーカーらは協調と関係の強化について次のような仮説を提唱している。「2人の会話が肯定的な意味でも否定的な意味でも濃密になると、言葉の協調も言葉以外の協調も深まるだろう。互いに相手へ腹を立てている2人は、同じような話し方になり、言葉以外の振る舞いも真似し合う確率がかなり高い。一方で、相手の話を聞かない、別のことを考えている、向精神薬の影響を受けているなど、どちらか1人か2人ともが会話に集中していなければ、言葉の協調も言葉以外の協調も大きく後退するだろう」

・楽しさと親密さ

Simon DeDeo, David C. Krakauer, and Jessica C. Flack, "Inductive Game Theory and the Dynamics of Animal Conflict," PLoS Computational Biology 6, no. 5 (2010).

・どちらも同じくらい

Erika B. Bauer and Barbara B. Smuts, "Cooperation and Competition During Dyadic Play in Domestic Dogs, Canis familiaris," Animal Behaviour 73 (2007) は「五分五分のルール」について3つの研究を挙げている。1つ目は、年齢の異なるフラビーと一緒に行動すると、若いほうが攻撃的になり、年かざのほうが守勢的になった。2つ目は、幼いマントヒヒのカップルを閉鎖的な空間に入ると、強いほうのパートナー（オス）が極端にやさしくなり、荒々しい振る舞いが抑制された。3つ目は、オオカミ、犬、コヨーテを閉鎖的な空間に入ると、「犬の仕草を共通の言語としてコミュニケーションを取ろうとするが、かなり攻撃的な仕草は、普通なら本当の攻撃と誤解されかねないものだった」。ただし、五分五分のルールを維持する戦略は「基本的に研究が進んでいない」とも指摘されている。Sergio M. Pellis, "Keeping in Touch: Play Fighting and Social Knowledge" も参照。

・否定的な言葉1つにつき

"The Positive Perspective: Dr. Gottman's Magic Ratio!," Gottman Institute Relationship Blog, December 3, 2012, <http://www.gottmanblog.com/2012/12/the-positive-perspective-dr-gottmans.html> より。以下に紹介されている研究に言及していると思われる。John M. Gottman, "What Predicts Divorce?: The Relationship Between Marital Processes and Marital Outcomes" (Hills dale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, 1994).

・肯定的な発言1回につき

M. Losada and E. Heaphy, "The Role of Positivity and Connectivity in the Performance of Business Teams: A Nonlinear Dynamics Model," American Behavioral Scientist 47 (2004): 740.65. 以下に要約がある。Jack Zenger and Joseph Folkman, "The Ideal Praise-to-Criticism Ratio," Harvard Business Review (March 15, 2013), <http://blogs.hbr.org/2013/03/the-ideal-praise-to-criticism/>

・ともに問題を乗り越える

ジョン・ゴットマン、ナン・シルバー「結婚生活を成功させる七つの法則」(松浦秀明訳、第三文明社、2000年)

・笑いはじめた  
同上

・ライト兄弟の実験費用  
Tom Crouch のインタビュー ( interview with Nova, posted November 11, 2003, <http://www.pbs.org/wgbh/nova/space/unlikely-inventors.html>). 2012 年の貨幣価値で約 2 万 7000 ドルに相当. 換算は以下を参照 (<http://www.westegg.com/inflation/infl.cgi>).

・キティホーク郊外  
Crouch, "The Bishop's Boys"

・不安定さを受け入れる  
同上

## 21. アルファとベータ——ヒッチコックのパラドクス

・「鳥」の主演  
ドナルド・スポト『ヒッチコック——映画と生涯』（勝矢桂子, 堀内静子訳, 早川書房, 1988 年）; Tim Oglethorpe, "Hitchcock? He Was a Psycho," Mail Online, December 20, 2012, <http://www.dailymail.co.uk/tvshowbiz/article-2251425/Tippi-Hedren-tells-Alfred-Hitchcock-turnedsexual-predator-tried-destroy-her.html>.

・少し困惑している女優  
このパラグラフまでのヒッチコックの言葉はスポト『ヒッチコック』より.

・ニュークリア・ウィンター  
"Anna Wintour," 60 Minutes (CBS, 2009), <http://www.cbsnews.com/videos/anna-wintour/>.

・近くに立ちすぎる  
Kate Kelly and Merissa Marr, "Boss-Zillal," Wall Street Journal, September 24, 2005, <http://online.wsj.com/news/articles/SB112749746571150033>.

・そばにいる人たちのおかげ  
筆者とマーク・リプトンのインタビュー (2011 年 8 月 12 日).

・生産的な強迫型人格  
Michael Maccoby, "Narcissistic Leaders: The Incredible Pros, the Inevitable Cons," Harvard Business Review (January/February 2000), <http://www.maccoby.com/Articles/NarLeaders.shtml>

・必要なときは抵抗する  
同上

・ジョブズは引き下がった

ウォズニアック『アップルを創った怪物』

・生き残れない  
アイザックソン『ステイプ・ジョブズ』

・精神的にタフでなければならない  
筆者とエディ・アーランドソンのインタビュー (2013 年 9 月 2 日).

・私をほめて  
Michael Thornton, "Hitchcock the Psycho," Mail Online, March 21, 2012, <http://www.dailymail.co.uk/femail/article-2118385/Hitchcock-Psycho-As-Birds-star-Tippi-Hedren-reveals-tried-destroy-spurned-advances-blondes-lived-fear-sadistic-director.html>.

・自分以外は誰も  
スポト『ヒッチコック』

・守衛に預けていた  
同上

・セットの部屋を  
Tippi Hedren, のインタビュー. with John Hiscock, Telegraph, December 24, 2012, <http://www.telegraph.co.uk/culture/film/starsandstories/9753977/Tippi-Hedren-interview-Hitchcock-put-me-in-a-mental-prison.html>.

・これで終わり  
John Triggs, "The Psycho and His Blondes," Express, May 27, 2008, <http://www.express.co.uk/expressyourself/45830/The-psycho-and-his-blondes>.

・専属契約の残り 3 年間  
ヘドレンのインタビュー.

・支配する側  
Matt Tyrnauer, "So Very Valentino," Vanity Fair, August 2004.

・ミス・スタインに命令しているように  
"Alice Toklas, 89, Is Dead in Paris," New York Times, March 8, 1967, <http://www.nytimes.com/books/98/05/03/specials/stein-toklasobit.html>.

・軍隊みたいなものだから  
筆者とキャスリン・ミシヨンのインタビュー (2013 年 8 月 24 日).

・日常的な経営判断  
筆者とクリス・ロトライカー, クエール・ホデックのインタビュー.



・遂行者

ケイト・ルードマン, エディ・アーランドソン 『部下の心をつかむセルフ・コーチング——自ら省みることなくして, 人は育たず』(村井章子訳, ダイアモンド社, 2009年)

・ほかの人々には

Mike Capuzzo, "Ralph Abernathy's Judgment Day," Philly.com, December 5, 1989.

・踊りのパートナーに対しては

ファレルとバラジンの複雑な力学については d'Amboise, "I Was a Dancer" に次のような記述がある。「スザンヌは温水と冷水が完璧に切り替わる蛇口のような口だった。暖かくて気遣いと思ひやりにあふれているかと思えば、冷たくてよそよそしくなり、相手を拒絶して、彼（バラジン）を手のひらで操っていた」。ファレルがバレエ団を追われることになった決定的な出来事についてダンポワーズは、彼女は結婚した後も「自分がそれまでと同じように、演目やキャストを選べるつもりだった。バラジンが自分を敬愛していると自信があったからどんどん強気になって、彼がどこまで折れるかを試そうとした」と書いている。

・結果の理解と説明を

ジャドソン 『分子生物学の夜明け』

・単純な話だ

同上

・これまで一緒に仕事をしたなかで

このパラグラフの引用は McElheny, "Watson and DNA" より。

・そのとおりだよ

筆者とワトソンのインタビュー。ワトソンはニューヨーク・タイムズ紙のニコラス・ウェイドにも、クリックとの兄弟のような力学について語っている。「フランシスは私を弟のように扱った。それは素晴らしいことだ。兄は弟のことを気にかけるから。でも、弟はときどき兄と対等になりたいくなる」。Nicholas Wade, "A Revolution at 50: Watson and Crick, Both Aligned and Apart, Reinvented Biology," New York Times, February 25, 2003, <http://is.gd/Nb0NXF>.

## 22. 「マッカートニー・レノンはどうかな？」——権力のダンス

・テンションのアルバム

ポール・マッカートニーのインタビュー (Musician, 1985年2月)。William J. Dowling, "Beatlesongs" (New York: Simon and Schuster, 2009) の引用を参照した。

・ただただ憧れた

シンシア・レノン 『ジョン・レノンに恋して』

・バンドの広報担当

デイヴィス 『ビートルズ』

・笑いものにした

ルイソン 『ザ・ビートルズ史』

・たまにサインをする

デイヴィス 『ビートルズ』

・ポールが天性のバンドリーダーだ

ジョージ・マーティン 『ビートルズ・サウンドを創った男 耳こそはすべて』(吉成伸幸, 一色真由美訳, 河出書房新社, 2002年)

・最強だった

デイヴィス 『ビートルズ』

・グループのリーダーということ?

"The Beatles Bible" <http://www.beatlesbible.com/1962/10/27/the-beatles-first-radio-interview>.

・彼らはスタジオに向かった

デイヴィス 『ビートルズ』

・ジョンの言うとおりだ

ピーター・ドゲット 『ザ・ビートルズ 解散の真実』(奥田祐士訳, イースト・プレス, 2014年)

・契約書はマッカートニー、レノンの順に

ルイソン 『ザ・ビートルズ史』

・マッカートニー・レノン

"TheBeatles-Collection.com" にオリジナル盤の映像がある。 <http://is.gd/vBR8wn>.

・マッカートニー・レノンはどうかな?

レイ・コールマン 『ポール・マッカートニーとイエスタデイの真実』(中川聖訳, シンコーミュージック, 1998年)

・誰かがそばにいないければ

Shotton and Schaffner, "John Lennon"

・あっちが悪いのに

デイヴィス 『ビートルズ』

・気にしないことにした

コールマン 『ポール・マッカートニーとイエスタデイの真実』

・将来いつでも

"Sir Paul Defends Credits Switch," BBC News, December 19, 2002, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/entertainment/2588347.stm>.

#### ・性的な接触

ジョンは友人のビート・ショットンに次のように語っている。「とにかくエbbieが僕を口説きつづけた。ある夜、僕はついにパンツをおろして言ったんだ。『いい加減にしろ、ブライアン、そいつを俺のケツに突っ込めばいいだろう』。すると彼が、『そういうことはしない、そういうことをしたいんじゃない』と言った。『じゃあ、どうしたいんだ?』『きみに触りたいだけなんだ、ジョン』。だから触らせてやった』(Shotton and Schaffner, "John Lennon")。ハンター・デイヴィスは『ビートルズ』(revised edition)で次のように書いている。「ジョンは私に……スペインの休暇でブライアンと一晩だけ関係を持ったと言った。1963年にジュリアンが生まれた数日後にブライアンがジョンを誘い、シン(シア)を残して(スペインに)行ったことは私も本で書いたが、ジョンが主張するような関係には触れなかった。ジョンは1度くらい試しそうなところはあったけれど、本当には信じられなかったから、ジョンが同性愛者でなかったことは確かだ。彼の自慢(あるいは嘘)は間違った印象を生むだろうと考えた」

#### ・あまり知られていない一面だけど

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

#### ・2人は成長しつづけた。

マクドナルド『ビートルズと60年代』に次のように書かれている。「ビートルズの最初の時期は(「アイ・ウォント・トゥ・ホールド・ユア・ハンド(抱きしめたい)」まで)、レノンとマッカートニーは単独で作った曲も共同で作った曲もそれぞれ同じくらい貢献していた。『ウィズ・ザ・ビートルズ』は部分的にレノンが前に出た。『ハード・デイズ・ナイト(ビートルズがやって来る ヤァ! ヤァ! ヤァ!)]ではレノンが曲作りで没頭するようになって、オリジナル曲の半分以上を手がけている。2人の対立意識は高まり、『キャント・バイ・ミー・ラブ』でマッカートニーが自分を前面に出したことが、自分こそリーダーだと確信していたレノンに火をつけたに違いない……レノンが急に創作への意欲を燃やしたため、バンドの曲は1年近く彼の作品ばかりになった。そう考えると、『ユー・キャント・ドゥ・ジス』という傲慢なタイトルが、再征服を宣言する計算された最初のパンチに思えてならない」

#### ・「フル・オン・ザ・ヒル」

デイヴィス『ビートルズ』

#### ・午前5時4分

ルイソン『ザ・ビートルズ』

#### ・「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」のジャケット写真

マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

#### ・「ア・デイ・イン・ザ・ライフ」

Wenner, "Lennon Remembers"

#### ・曲のさわりを

ジョン・レノンのインタビュー (with Jonathan Colt, Rolling Stone, 1968年11月23日)。

#### ・僕の番だ

Wenner, "Lennon Remembers"

#### ・スタジオにこもり

エメリック、マッセイ『ザ・ビートルズ・サウンド』

#### ・すべての曲が

Neville Stannard, "The Long and Winding Road" (New York: Avon Books, 1982)によると録音には700時間以上を費やした。2009年付けの「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」のブックレットには、アルバム completionまで129日と400時間近くかかったとある。

#### ・いつものように

マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

#### ・ジョンと歌を作るのは

同上

#### ・サクランボを口に詰め込めるか

2人のサイトで動画が公開されている。http://lashermanasiglesias.com/collaborations/lh-competitions.

#### ・気持ちを静めるためよ

筆者とリサ・イグレスシアスのインタビュー (2009年10月12日)。

#### ・1000回くらい

この場面の詳細はデイヴィス『ビートルズ』より。

#### ・どれにしようかな

マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

#### ・困惑した

マーティン『ビートルズ・サウンドを創った男』

#### ・とても謎めいていたけれど

ポールがジョンと一緒にトリップしたときの回想はマイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』より。

#### ・僕たちのアイドルだった

Anthony DeCurtis, "In Other Words: Artists Talk About Life and Work" (Milwaukee, WI: Hal Leonard Corporation, 2006)

#### ・圧倒された

"Brian Wilson on Tour," directed by John Anderson (Sanctuary, 2003).

#### ・「ベット・サウンズ」

キーズ・バッドマン、トニー・ペーコン『ザ・ビーチ・ボーイズ・ダイアリー』(宮治ひろみ訳, 毎日コミュニケーションズ, 2005年)

#### ・もう遅いだろうな

"Beautiful Dreamer: Brian Wilson and the Story of 'Smile'" directed by David Leaf (2004).

・LSDの救いの力

「ジョンは思うがままに（LSDに）身を委ねた。より素晴らしい啓蒙と創造性と幸福をもたらしてくれると信じて」（シンシア・レノン「ジョン・レノンに恋して」）

・ここに座って、

デイヴィス『ビートルズ』より。ヴォーンとデイヴィスは、ジョンの攻撃性が弱まったのはドラッグの影響だと思っていたが、2人も明言はしていない。

・バンドのなかで

エメリック、マッセイ『ザ・ビートルズ・サウンド』

・いったい何をすればいいのか

Shotton and Schaffner, “John Lennon”

・目に見えなくなる

エメリック、マッセイ『ザ・ビートルズ・サウンド』

・おもしろいアイデア

マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』

・みんなをだましていたんだな

『ザ・ビートルズ・アンソロジー』

・この時期に作られたものだ

インドで作ったと考えられる曲は「クライ・ベイビー・クライ」（マクドナルド『ビートルズと60年代』より）、「ヤー・ブルース」「マザー・ネイチャーズ・サン」「ジュリア」「アイム・ソー・タイアード」「ディア・ブルーデンス」（シェフ『ジョンとヨーコ ラストインタビュー』より）、「ザ・コンティニューイング・ストーリー・オブ・パンガロー・ビル」「ワイルド・ハニー・パイ」「ロッキー・ラクーン」「バック・イン・ザ・USSR」「オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ」「アイ・ウィル」（マイルズ『ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ』より）、「レボリューション」（Stannard, “The Long and Winding Road”より）、「ポリシーン・パン」「ミーン・ミスター・マスタード」（“The Beatles in Their Own Words,” compiled by Barry Miles [New York: Putnam, 1978]より）。「セクシー・サディー」はインドから帰国した直後に作ったようだ。「ホワイ・ドント・ウィー・ドウ・イット・イン・ザ・ロード」もインドの経験に刺激を受けているが、創作時期は定かではない。「ブラックバード」「エブリバディーズ・ゴット・サムシング・トゥ・ハイド・エクスプト・ミー・アンド・マイ・モンキー」もインドで作られたとされている。

・これまでのアルバムでいちばん

エメリック、マッセイ『ザ・ビートルズ・サウンド』

・頭をやられたのかと

同上

・ついてくることができなかった

シェフ『ジョンとヨーコ ラストインタビュー』

## 23. 「こんな状況はありえない」——揺さぶり

・相手そのものだと考える

筆者とマクレーン・スミスインタビュー（2013年12月9日）。

・軽口が多すぎる人

Diane H. Felmlee, “Fatal Attraction,” in *The Dark Side of Close Relationships*, eds., Brian H. Spitzberg and William R. Cupach (New York: Routledge, 1998).

・何も期待できなかった

Graham Nash, “Wild Tales: A Rock & Roll Life” (New York: Crown, 2013)

・どんどん激しくなった

同上

・彼を見守ろうとしたのに

筆者とナッシュおよびクロスビーのインタビュー。

・メンバーの誰より大きな存在

筆者とチャットンのインタビュー（2013年11月7日）。

・人前で溝を見せてはいけない

Elizabeth Cady Stanton, “Eighty Years and More: Reminiscences, 1815-1897” (Amherst, NY: Humanity Books, 2002). ペンシルベニア大学のデジタルライブラリーにも収録されている (<http://digital.library.upenn.edu/women/stanton/years/years.html>).

・1930年代に

Glyer “The Company They Keep”

・カンタベリー大主教と同じような存在

“Religion: Don v. Devil,” *Time*, September 8, 1947, <http://ti.me/1eLkwxw>.

・聖職者に委ねるべき

Glyer “The Company They Keep”

・会う人すべてがジェリー・ルイスなので

Jerry Lewis and James Kaplan, “Dean and Me” (A Love Story) (New York: Three Rivers Press, 2006).

・Aが自分を守るため

Sandra L. Murray and John G. Holmes, “A Leap of Faith? Positive Illusions in Romantic Relationships,” *Personality and Social Psychology Bulletin* 23, no. 6 (June 1, 1997), doi:10.1177/0146167297236003. この研究は、幸福感に関する従来の概念に異議を唱えて私たちの不安

をかき乱す。幸福感は、心理学者の R・P・ベントールが書いているように、明らかに幻想の連続なのだ。ベントールは皮肉の真実に関する論文で、幸福感を精神障害のひとつに分類している（「主要な情動（感情）障害、爽快型」）。R. P. Bentall, "A Proposal to Classify Happiness as a Psychiatric Disorder," Journal of Medical Ethics 18, no. 2 (June 1992).

・札束にしか見えない  
Lewis and Kaplan, "Dean and Me"

## 24. 成功のパラドクス——くさび

・DVDとして過去最高の売り上げ  
Christopher John Farley, "Dave Speaks," Time, May 14, 2005, <http://content.time.com/time/magazine/article/0,9171,1061512,00.html>; Rachel Kaadzi Ghansah, "If He Hollers Let Him Go," Believer, [http://www.believermag.com/issues/201310/?read=article\\_ghansah](http://www.believermag.com/issues/201310/?read=article_ghansah).

・自分を見失う  
Farley, "Dave Speaks"

・2人で自爆する  
筆者とブレナンのインタビュー（2013年2月22日）。

・2シーズンで  
Andrew Wallenstein, "Chappelle's Show' Back for a Few Episodes," NPR.org, <http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyId=5055007>.

・自分で支えきれなくなる  
"Chappelle's Story," Oprah.com, <http://www.oprah.com/oprahshow/Chappelles-Story>.

・絶対にありえない  
筆者とブレナンのインタビュー。

・1970年代後半から80年代前半にかけて  
"Apple Turns 30," CNET.com

・アップルIIのエンジニアとして  
ウォズニアック「アップルを創った怪物」

・世界一のテトリス・プレイヤー  
Wolf, "The World According to Woz"

・こういうのはどう？  
アイザックソン「スティーブ・ジョブズ」

・従属からも依存からも  
Kathleen D. Vohs, Nicole L. Mead, and Miranda R. Goode, "The Psychological Consequences of Money," Science 314, no. 5802 (2006): 1154.56, doi:10.1126/science.1132491.

・倫理観と思いやりに欠ける  
Lisa Miller, "The Money-Empathy Gap," New York, July 1, 2012, <http://nymag.com/news/features/money-brain-2012-7/>.

・恥ずかしさのあまり立ちすくんでいた  
Taylor Branch, "The King Years: Historic Moments in the Civil Rights Movement" (New York: Simon and Schuster, 2013).

・平和賞の賞金  
Taylor Branch, "Pillar of Fire: America in the King Years, 1963-1965" (New York: Simon and Schuster, 1997), Kindle edition.

・現在の価値で  
1964年の賞金額はノーベル賞の公式サイトより（[http://www.nobelprize.org/nobel\\_prizes/peace/laureates/1964/king-bio.html](http://www.nobelprize.org/nobel_prizes/peace/laureates/1964/king-bio.html)）。換算は以下を参照（<http://www.westegg.com/inflation/infl.cgi>）。

・疎遠  
Branch, "Pillar of Fire"。[運動の関係者]はアンドルー・ヤング。最後まで疎遠だったことは筆者がテイラー・ブランチから聞いた（2013年12月30日）。

・僕たちから1ドルも稼げない時代  
David M. Halbfinger, "Rewriting Hollywood's Rules," New York Times, September 10, 2007, <http://www.nytimes.com/2007/09/10/business/media/10morris.html>.

・番組の知的所有権  
筆者とモリスのインタビュー（2013年12月5日）。

・中学時代からの知り合い  
Christie Sounart, "South Park's Unsung Genius," Coloradan Magazine, September 1, 2013.

## 25. 修復不能——レノン・マッカートニーの別離

・彼は仲間だった  
インタビューは「The Beatles Bible」に掲載されている。 <http://www.beatlesbible.com/1967/08/27/interview-in-bangor-wales/>

・その現実を無視する  
ドゲット「ザ・ビートルズ 解散の真実」によると、ポールは1968年夏に重鎮たちに助言を求めている。[EMIのボス、ジョセフ・ロックウッドと元保守党幹事長のオリバー・プールに相談したあと、英国鉄の経営

合理化のために大がかりな廃線を断行したことで悪名高いリチャード・ビーチングにも会った]

・西洋の Kommunismus

同上

・ジョンとポールに従属すること

Gary Tillery, "Working Class Mystic: A Spiritual Biography of George Harrison" (Wheaton, IL: Quest Books, 2011).

・怒りを燃え上がらせる

Greil Marcus, "A Virtuoso Would Have Destroyed the Beatles," Guardian, December 2, 2001, <http://www.theguardian.com/culture/2001/dec/03/artsfeatures.thebeatles1>.

・生涯、プレイボーイではられない

"Paul McCartney: Wingspan--an Intimate Portrait", directed by Alistair Donald" (MPL Communications, 2001).

・必要ないだろう?

「ザ・ビートルズ・アンソロジー」

・これからはそう思ってくれ

Shotton and Schaffner, "John Lennon"

・大真面目だった

同上

・その夜遅く

同上

・バトロンになってほしい

同上

・はっきりと熱を感じた

Spitz, "The Beatles"

・そろそろ結婚しよう

シンシア・レノン 「ジョン・レノンに恋して」

・当時ジェーン・アッシュと暮らしていた家で

Peter A. Carlin, "Paul McCartney"

・相棒みたいだから

Jonathan Colt, "Yoko Ono and Her Sixteen-Track Voice," Rolling Stone, March 18, 1971.

・顔を出さなくなった

エメリック、マッセイ 「ザ・ビートルズ・サウンド」

・「ブラックバード」

この曲がアビー・ロードのスタジオで最初に演奏されたのは 1968 年 6 月 11 日。「レボリューション 1」の 20 テイク分のモノ・リミックスをほぼ仕上げた後から 7 日後だった。ちなみに、1967 年 12 月 22 日に「ストロベリー・フィールズ・フォーエバー」を仕上げた後、ポールがのちに「ペニー・レイン」となる曲を披露したのも 7 日後だった。ルイソン 「ザ・ビートルズ」を参照。

・「ヘルター・スケルター」

「世紀末のロッカー、ポールが、レコード音楽史上最も騒々しくて複雑な曲を目指して作った。本人いわく、破壊のサウンドを想像して書いた。ローマ帝国の崩壊、絶叫のカオスの音楽だ。墮落、没落、墜落の音楽だった」(Carlin, "Paul McCartney")。

・そのテイクが採用された

ルイソン 「ザ・ビートルズ」

・昔みたいにできる

この時期のポールの思いは、アルバム「レット・イット・ビー」のセッションを録音した合間の会話に表れている。音源は公開されていないが、Doug Sulpy と Ray Schweighardt がやり取りを説明している（おそらく法律上の理由から直接の引用はできないようだ）。それによると、1969 年 1 月 13 日にポールは、「問題はヨーコというよりジョンが彼女に依存していることだと理解しているが、ポール自身も彼女がいると落ち着かないから彼女の存在が気に入らないのだと認めている。彼はさらにジョンを責めて、自分たち 2 人が真剣に取り組んでいるときはヨーコに邪魔をさせるな、会話にも口出しさせるなど主張している……ジョンとヨーコの関係は深すぎるが、ジョンのめり込むのはいつものことだから我慢すとも語っている」(Doug Sulpy and Ray Schweighardt, "Get Back: The Unauthorized Chronicle of the Beatles" "Let It Be" Disaster [New York: St. Martin's, 1999]). ピーター・カーリンはジョンの気分を「春のロンドンの天気」にたとえている。「目の前のものが気に入らなくても、10 分待てば変わるだろう」(Carlin, "Paul McCartney")。

・憎しみではなく無関心

Elie Wiesel, "Against Silence: The Voice and Vision of Elie Wiesel," vol. 2 (New York: Schocken, 1985) を参照。

・強烈な遠心力に勝った

Mikal Gilmore, "Why the Beatles Broke Up," Rolling Stone, <http://www.rollingstone.com/music/news/why-the-beatles-broke-up-20090903>. に簡潔でわかりやすい説明がある。

・合図を返した

屋上のコンサートはネットにさまざまな映像があるが、公式の映像は公開されていない。

・とくにお気に入りだ

ルイソン 「ザ・ビートルズ」

・コーラスを担当した

同上。ポールはマイルズ 「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」で、ジョンが自宅に来たときのことを語っている。「少々手こずっていた詩の最後を僕に手伝ってもらおうと、キャンディッシュ通りに

やって来た。いつものように、いくつかセンテンスをやり残して僕のところに来れば、一緒に仕上げられるとわかってた]

・ジョン個人の貢献について。

Wenner, "Lennon Remembers" より。ジョンは次のように語っている。「彼（クレイン）はどれが僕の曲で、どれが僕の詩かを知っているだけでなく、ずっと前から理解していた……僕には申し分なかった。ジョン・レノンにもすべてを把握することは難しかったから」

・正しかったことが証明された

クレインとビートルズの間については以下に John McMillian の著書 "Beatles vs. Stones" からの抜粋がある。John McMillian, "You Never Give Me Your Money: How Allen Klein Played the Beatles and the Stones," Newsweek, December 17, 2013, <http://is.gd/svDFZT>

・そうなんだろう？

マイルズ「ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ」より。この口論はクレインに関してはないが、誰にマネジメントを託すかをめぐるジョンとポールのやり取りを象徴している。ポールが選んだリーとジョンソン・イーストマン親子（1969年にポールはリンダ・イーストマンと結婚、それぞれ義理の父と兄になった）は適任だったが、ジョンとジョージは非常識だと感じていた。

・業界に強い弁護士を連れて来た

リチャード・ディレロ「ビートルズ神話を剥ぐ」(庄司英樹訳, 音楽之友社, 1974年)

・クレインとイーストマン親子の代理戦争

代償は大きすぎた。ジョンとポールは、ブライアン・エプスタインの会社を買収して出資分の大半を取り戻す機会を逃した。雨はやがて土砂降りになるものだが、この場合、みぞれになってひょうに変わった。レノン・マッカートニーの版権管理会社ノーザン・ソングズの株の半分近くを所有していた音楽出版業界の大物ディック・ジェームズは、トラブルを懸念して株を売却。クレインはジョンに、ポールが自らノーザン・ソングズの株を買うだろうと警告した。これでジョンはポールと共同で会社を管理することに嫌気が差し、肝心なときに買収に失敗したのだ。

・言いなりにはならない

ポール・マッカートニーのインタビュー。with Richard Meryman, Life, April 16, 1971, <http://is.gd/Q7ubwW>

## 26. 終わりのないゲーム——レノン・マッカートニーは決裂したのか？

・訴訟まで起こした

Pierre Perrone, "Allen Klein," Independent, July 6, 2009, <http://www.independent.co.uk/news/obituaries/allen-klein-notorious-business-manager-for-the-beatles-and-the-rolling-stones-1732780.html>。クレインとの契約を更新しなかったというかたちだが、彼に対する不満を考えれば解雇と言ってもかまわないだろう。

・たぶん再生だろう

1970年2月に行われたデービッド・ウィグによるジョン・レノンのインタビュー。オンラインで音声データを聴くことができる。 [http://www.dailymotion.com/video/xrv35w\\_the-beatles-tapes-side-1-john\\_music](http://www.dailymotion.com/video/xrv35w_the-beatles-tapes-side-1-john_music)

・答えは「ない」。

"The Beatles Bible" に Q&A の全文が掲載されている。 <http://www.beatlesbible.com/1970/04/10/paul-mccartney-announces-the-beatles-split>

・世界を駆けめぐった

Alvin Shuster, "McCartney Breaks Off with Beatles," New York Times, April 11, 1970, <http://bit.ly/1j4qQIX>。

・脱退なんて

Jann S. Wenner, "One Guy Standing There Shouting 'I'm Leaving,'" Rolling Stone, May 14, 1970.

・誰にもわからないんだ

Chris Ingham, "The Rough Guide to the Beatles" (New York: Penguin, 2009), e-book.

・ほかの3人はどう思うかな

Keith Newham, "John Lennon Is Low Key After Deportation Fight," Pittsburgh Press, November 12, 1975.

・便器をはずして投げつけた

エルトン・ジョンのインタビューより。PBS "LENNONYC: Beyond Broadcast," American Masters, September 30, 2010, <http://www.pbs.org/wnet/americanmasters/lennonyc-beyond-broadcast-episode-4-elton-john/1654/>

・ここから先は

Norman, "John Lennon"

・上下に弾んだ

エルトン・ジョンのインタビュー (PBS)。

・最後のライブ

本当の「最後のステージ」は1975年4月18日に収録されたテレビ番組「サリユート・トウ・サー・リユール・グレイド」での演奏で、6月に放映された。

・名前はポール

ステージの映像はネットで広く出回っている。"The Beatles Bible" にジョンの発言の書き起こしがある (<http://is.gd/7u7so8>)。

・録音を聞きに来ないか

"It Was 20 Years Ago Today," Observer, December 2, 2000, <http://www.theguardian.com/theobserver/2000/dec/03/features.review7>。

・メイ・パンも賛成した  
May Pang のインタビュー. with Casey Piotrowski, The Beatles Show, May 3, 2008, WPMD-FM,  
<http://is.gd/sK5Bvk>

・私たちが死ぬときだ  
クレモンズへの追悼の辞 (2011年6月21日). <http://is.gd/iUprXW>

・軽い気持ちでそんなことをする人ではなかった  
マイルズ [ポール・マッカートニー・メニー・イヤーズ・フロム・ナウ]

・心からの賛辞  
ジョンがほめたという曲は「ヒア・ゼア・アンド・エヴリホエア」。ポールはこのエピソードを繰り返し語っている (1984年12月のプレイボーイ誌のインタビュー, 『ザ・ビートルズ・アンソロジー』1995年刊, 1998年に行われたBBCのインタビュー “McCartney on McCartney” [1989年4月8日放映, <http://is.gd/1mbplc>], 2007年6月のニュー Yorker 誌)。本書の引用は John Colapinto, “When I’m Sixty-Four,” New Yorker, June 4, 2007 より。

・心のなかでジョンと会話をしている  
Shaun Kitchener, “Paul McCartney Admits Having ‘Conversations’ with John Lennon’s Spirit,” Entertainment Wise, October 24, 2013.

・互角な相手  
Alexis Petridis, “Paul McCartney: ‘New’. Review,” Guardian, October 10, 2013, <http://www.theguardian.com/music/2013/oct/10/paul-mccartney-new-review>

・実際にそばにいるときと同じような  
筆者マクレーン・スミスのインタビュー (2013年12月9日)。

・共通の目標を実現した  
“James Watson, Francis Crick, Maurice Wilkins, and Rosalind Franklin,” <http://www.chemheritage.org/discover/online-resources/chemistry-in-history/themes/biomolecules/dna/watson-crick-wilkins-franklin.aspx>.

・最悪の登場人物はジムだ  
Nicholas Wade, “A Revolution at 50: Watson and Crick, Both Aligned and Apart, Reinvented Biology,” New York Times, February 25, 2003, <http://is.gd/Nb0NXF>.

・孤児になった気がする  
Farrell, “Holding On to the Air”

・自分の人生において彼が果たした役割  
Accocella, “Profiles.” 以下も参照。Jennifer Homans, “The Balanchine Couple,” New Republic, March 8, 2004, <http://www.newrepublic.com/article/79587/the-balanchine-couple>.

・わかった。行くよ

Taylor Branch, “At Canaan’s Edge: America in the King Years, 1965-1968” (New York: Simon and Schuster, 1996).

・私は山頂に登ってきたのですから  
下記サイトに演説の音声がある。  
<http://americanrhetoric.com/speeches/mlkivebeentothemountaintop.htm>.

・完全にからっぽくなった  
Abernathy, “And the Walls Came Tumbling Down”

・ステージで主役を張る素質  
パートナーが死んだ後のアバーナシーの人生については以下に簡潔で辛らつな記述がある。Mike Capuzzo, “Ralph Abernathy’s Judgment Day,” Philadelphia Inquirer, December 5, 1989.

・キングと彼の遺産を裏切った  
Art Harris, “A Feud Within the Cause: King Allies Feel Hurt by Abernathy Memoir,” Orlando Sentinel, <http://bit.ly/1aUGzI9>.

・歴史からおまえの足跡を消す  
Michael A. Fletcher, “Ralph Abernathy’s Widow Says March Anniversary Overlooks Her Husband’s Role,” Washington Post, <http://wapo.st/LpZvf2>.

・翌年、アバーナシーは死んだ  
“Ralph D. Abernathy,” <http://www.biography.com/people/ralph-d-abernathy-9174397>.

・無視され、忘れられている  
Fletcher, “Ralph Abernathy’s Widow.”

・死にゆく兄のかたわらに  
Adeline Ravoux, “Memoirs of Vincent van Gogh’s stay in Auverssur-Oise,” trans. Robert Harrison, <http://webexhibits.org/vangogh/letter/21/etc-Adeline-Ravoux.htm>.

・息子に兄の名前をつける  
Jan Hulsker, “Vincent and Theo van Gogh: A Dual Biography” (Ann Arbor, MI: Fuller Publications, 1990).

・美術館のように  
同上

・テオ、ディレクター  
同上

・画家だった兄のような、いわゆる狂人  
同上

・ひどくなった  
同上

・様子を確認してほしい  
同上

・1891年1月  
一般に1989年1月25日とされているが、『ファン・ゴッホの生涯』（ネイフ、スミス）によると、病院の記録には1月24日に遺体を片づけたとある。

・過度の行動と悲しみ  
Colt, "Brothers"

・自殺だったのかもしれない  
Stolwijk, "Theo van Gogh, 1857-1891"

・同じ思いを抱いて  
同上

・息を吹き返したかのように  
"Sister Act: A New Take on Dorothy Wordsworth," NPR.org, <http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyId=101452310>.

・かたちのある終焉が訪れるというのは神話だとしても  
社会学者のナンシー・バーンスは著書（Nancy Berns, "Closure: The Rush to End Grief and What It Costs Us" Philadelphia: Temple University Press, 2011）で、かたちのある終焉という考え方に社会的な根拠はなく、葬儀会社が工夫を凝らした葬儀を売り、愛する故人と話ができると霊能者が言い、弁護士が故人に絡んで訴訟を起こしめようとするなど、ビジネスモデルの1つとしてつくられた神話だと指摘している。

・クロスビーとスティルスを呼んだ  
Nash, "Wild Tales"

・ソロに近いと思っている  
筆者とナッシュ、クロスビーのインタビュー。

・戻りたくてたまらないのだろう  
物理的な成功も名声を得たのもマリナ自身の実績で、自分ひとりでは何も成し得なかったことはウライも認めており、ドキュメンタリーのなかで「でも、もういいんだ。彼女と結婚するから」と語っている。もちろん真剣ではないが、完全な冗談にも思えない。"Marina Abramovi.: The Artist Is Present," directed by Matthew Akers and Jeff Dupre (Show of Force, 2012)

・存在しないアーティスト  
筆者とウライのインタビュー（2013年11月10日）。

・いまだに話もしていない  
筆者とアブラモヴィッチのインタビュー（2013年11月10日）。

・「争いをなくす」ために  
Westcott, "When Marina Abramovi. Dies"

## エピソード

・見つけてもらえないと最悪だ  
よく引用されている言葉。出典であるウィニコットの論文 "Communicating and Not Communicating Leading to a Study of Certain Opposites" は Lesley Caldwell and Angela Joyce, "Reading Winnicott" (New York: Routledge, 2011) や <http://readingsinpsych.files.wordpress.com/2009/09/winnicott-communicating.pdf> で参照できる。

・ホテルが炎に包まれる  
ホテルでのバートン・フィンクについては以下に表現豊かな描写がある。Mike D'Angelo, "Barton Fink," A.V. Club, September 28, 2009.

・そのリスクを冒すことになる  
Tess Girard の講演 "Fear and Fear Itself" (トランボリン・ホールにて、2013年10月7日) より。

・神聖さに触れる  
マルティン・ブーバー「我と汝 対話」（植田重雄訳、岩波文庫、1979年ほか）

・自分自身が変わってしまった  
筆者とクレア・サーフィンのインタビュー（2012年1月20日）。

・役に立っている  
ダニエル・ピンクは「人を動かす、新たな3原則」（神田昌典訳、講談社、2013年）で、自分との対話の効果について語っている。Daniel H. Pink, " 'Can We Fix It' Is the Right Question to Ask," Telegraph, June 19, 2010 に抜粋がある。 <http://www.telegraph.co.uk/finance/7839988/Can-we-fix-it-is-the-right-question-to-ask.html>